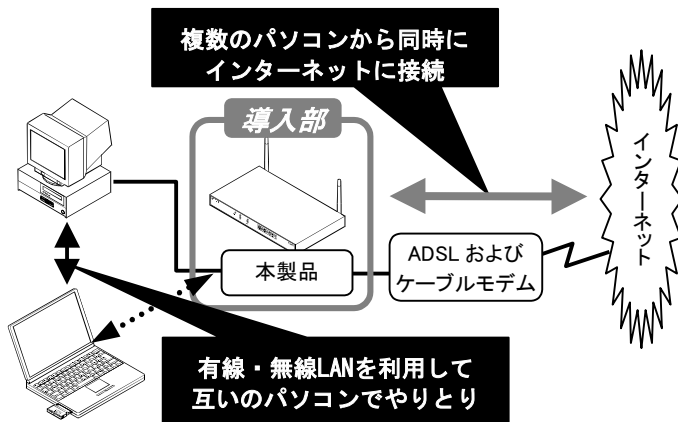
I-O DATA

WN-B11/BBRH 取扱説明書

109047-02

【本製品を使えば…】

本製品を導入すれば、複数台のパソコンから同時にインターネットに接続できるようになります。また、本製品に接続したパソコンでデータのやりとりをLANでできるようになります。

【ご注意】

1) 本製品および本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品および本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。
4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
5) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
6) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関る設備や機器、及び海底中継機、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
7) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan.　We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
8) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
9) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

もくじ

本製品を使うまでの手順

以下の流れにしたがって、本製品を使う環境をつくりましょう。

【接続する前に】

使う前に

【設置と接続】

設定用パソコンをつなぐ

【設定準備】

設定準備をする

【インターネットにつなぐ】

インターネットに接続する

必要なときに読むところ

本製品の付属情報や使用中のトラブルがあったときの解決法です。

その他の設定

Windows(MSN) Messengerについて

付録

必ずお守りください

ここでは、お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。
ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。
弊社の本製品以外の製品全般についての内容も記載しています。

■警告及び注意表示

警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵記号の意味

この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）　「発火注意」を表す絵表示

この記号は禁止の行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）　「分解禁止」を表す絵表示

この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）　「電源プラグを抜く」を表す絵表示

⚠ 警告

本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守し、正しい手順で使用してください。

警告・注意事項を無視すると人体に多大な損傷を負う可能性があります。
また、正しい手順で操作しない場合、予期せぬトラブルが発生する恐れがあります。ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意事項、正しい手順を厳守してください。

本製品をご自分で修理・分解・改造しないでください。

火災や感電、やけど、故障の原因となります。
修理は弊社修理係にご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間であっても有償修理となる場合があります。

煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止してください。

電源がある場合は、電源を切ってコンセントからプラグを抜いてください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

本製品の取り扱いは、必ず取扱説明書で接続方法をご確認になり、以下のことにご注意ください。

●接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。
指定品以外を使用すると火災や故障の原因となります。
●ケーブルにものをのせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などは行わないでください。火災や故障の原因となります。
●給電されているLANケーブルは絶対に接続しないでください。
給電されているLANケーブルを接続した場合には発煙したり、火災の原因となることがあります。

本製品の取り付け、取り外し、移動の際は、必ずパソコン本体・周辺機器の電源を切り、本製品の電源ケーブルのプラグを電源コンセントから抜いてから行ってください。

電源ケーブルを抜かずに行うと、感電および故障の原因となります。

本製品を濡らしたり、水気の多い場所で使用しないでください。

お風呂場、雨天・降雪中、海岸・水辺での使用は火災・感電・故障の原因となります。

決められた電流内で使用してください。

本製品を出力電流の絶対最大定格を超えた電流で使用または保管すると火災・感電・故障の原因となります。

故障や異常のまま、通電しないでください。

本製品に故障や異常がある場合は、必ずパソコンから取り外してください。また、電源や AC アダプタがある場合は、通電をしないでください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

本製品を病院内で使用しないでください。

医療機器の誤動作の原因になることがあります。

心臓ペースメーカーの装着部位から 22cm 以上離して使用してください。

電波によりペースメーカーの動作に影響を与える恐れがあります。

日本国外で使用できません。

本製品は安定した場所に設置してください。

ぐらついた台の上や傾いたところには置かないでください。
落ちたり、倒れたりして事故の原因となります。水平なところに置いてください。

電源ケーブルについて

電源ケーブルの取り扱いは以下のことにご注意ください。

●電源ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。

●電源ケーブルをコンセントから抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜いてください。電源ケーブルを引っ張ると、断線または短絡して、火災・感電・故障の原因となります。

●濡れた手で電源ケーブルのプラグを、コンセントに接続したり抜いたりしないでください。感電の原因となります。

●電源ケーブルがコンセントに接続されているときには濡れた手でパソコン本体に触らないでください。感電の原因となります。

●電源ケーブルのプラグはほこりが付着していないことを確認し、根本までしっかり差し込んでください。ほこりなどが付着していると接触不良で火災の原因となります。

ACアダプタについて

AC アダプタの取り扱いは以下のことにご注意ください。

火災・感電の原因となります。

●ACアダプタを使用する際は、必ず添付のACアダプタもしくは指定のACアダプタを使用してください。

●ACアダプタの上にものをのせたり、かぶせたりしないでください。

●ACアダプタを保温・保湿性の高いもの（じゅうたん・スポンジ・ダンボール箱・発泡スチロールなど）の上ではご使用にならないでください。

●ACアダプタはAC100V以外の電圧で使用しないでください。
本製品に添付のACアダプタは、AC100V専用です。指定以外の電源電圧で使用しないでください。

⚠ 注意

本製品を使用する際に、取扱説明書などでの操作手順説明と異なった操作をしてデータが消失した場合は、データの保証は一切いたしかねます。

取扱説明書などで、操作方法を確認して操作してください。
また、故障に備えて定期的にバックアップを行ってください。
修理の際、検査のためにデータの消去などを行う場合があります。修理にお出しになる前にもバックアップを行ってください。

本製品は以下のような場所(環境)で保管・使用しないでください。

故障の原因となることがあります。

●振動や衝撃の加わる場所
●直射日光のあたる場所
●湿気やホコリが多い場所
●温湿度差の激しい場所
●熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）
●強い磁力・電波の発生する物の近く
（磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など）
●水気の多い場所（台所、浴室など）
●傾いた場所
●本製品に通風孔がある場合は、その通風孔をふさぐような場所
（保管は問題ありません）
●腐食性ガス雰囲気中（Cl_2、H_2S、NH_3、SO_2、NO_Xなど）
●静電気の影響の強い場所
●保温性・保湿性の高い（じゅうたん・スポンジ・ダンボール箱・発泡スチロールなど）場所（保管は問題ありません）

本製品は精密部品です。以下のことにご注意ください。

●落としたり、衝撃を加えたりしない
●本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
●重いものを上にのせない
●本製品内部に液体、金属、たばこの煙などの異物を入れない

パソコンから本製品にアクセス中（インジケータが点滅および点灯中）に電源を切ったり、パソコンをリセットしないでください。

故障の原因になったり、データが消失するおそれがあります。

ケーブルについて

- ケーブルは足などに引っ掛からないように、配線してください。足を引っ掛けると、けがや接続機器の故障の原因となります。
- 熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、接触不良などの原因になります。

本製品で使用する電波について

本製品は、2.4GHz 帯域の電波を使用しています。
本製品を使用する上で、無線局の免許は必要ありませんが、以下の注意をご確認ください。

・*以下の近くでは使用しないでください。*

・電子レンジ／ペースメーカーなどの産業・科学・医療用機器
・工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）
・特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

上記の機器などは、無線LANと同じ電波の周波数帯を使用しています。
上記の近くで本製品を使用すると、電波の干渉を発生する恐れがあります。
そのため、通信ができなくなったり速度が遅くなったりする場合があります。

・*携帯電話/PHS/テレビ/ラジオを本製品の近くでは、できるだけ使用しないでください。*

携帯電話/PHS/テレビ/ラジオなどは、無線LANとは異なる電波の周波数帯を使用しています。
そのため、本製品の近くでこれらの機器を使用しても、本製品の通信やこれらの機器の通信に影響はありません。
ただし、これらの機器を無線LAN製品に近づけた場合は、本製品を含む無線LAN製品が発する電磁波の影響によって、音声や映像にノイズが発生する場合があります。

・*間に鉄筋や金属およびコンクリートがあると通信できません。*

本製品で使用している電波は、通常の家屋で使用されている木材やガラスなどなどは通過しますので、部屋の壁に木材やガラスがあっても通信できます。
ただし、鉄筋や金属およびコンクリートなどが使用されている場合、電波は通過しません。部屋の壁にそれらが使用されている場合、通信することはできません。
同様にフロア間でも、間に鉄筋や金属およびコンクリート等が使用されていると通信できません。

2.4GHz帯使用の無線機器について

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器等のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

・この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運営されていないことを確認してください。

・万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数帯を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。

・その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きた場合は、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先:サポートセンター　電話:　金沢　076-260-3644
東京　03-3254-1144

2.4　DS　4
■■■

2.4：2.4GHz 帯を使用する無線設備を表す
DS　：変調方式を表す
4　：想定される与干渉距離を表す（<=40m）
■■■：全帯域を使用し、かつ、移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

使用上の注意

本製品は非常に精密にできておりますので、お取り扱いに際しては十分注意してください。

■取り扱い上の注意

・コネクタ部分に金属を差し込まないでください。
・ぬらさないでください。
・ラジオやテレビ、オーディオ機器の近くでは高周波の信号により、ノイズを与えることがあります。
・モータなどノイズが発生する機器の近くでは誤動作することがありますので、必ず離してお使いください。

■誤接続の注意

LAN/WANコネクタ（RJ-45）には、適応規格外のケーブル（電話用ケーブル、INSケーブルなど）を挿し込まないでください。

■修理について

・本製品の修理は弊社修理センターにご依頼ください。
改造などを行って、電気的および機械的特性を変えて使用することは絶対にお止めください。

使う前に

ここでは、本製品を使う前の作業について、順を追って説明しています。

箱の中を確認する

内容物リストを確認します。

☞ 14ページ

▼

動作環境を確認する

本製品を使うことができる機種などを確認します。

☞ 15ページ

各部のなまえとはたらき

本製品の各部のなまえとはたらきを確認します。

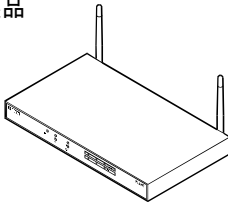
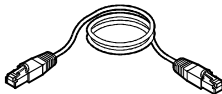
☞ 22ページ

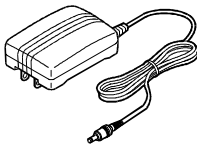
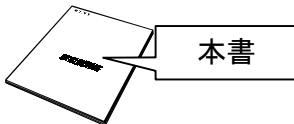
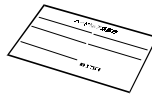
箱の中を確認する

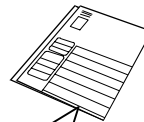
ご使用の前に、以下のものがそろっていることを □ にチェックをつけながらご確認ください。万一、不足品がありましたら、弊社サポートセンターまでお知らせください。

注意！

・箱や梱包材は大切に保管し、修理などの輸送の際にご利用ください。
・イラストは若干異なる場合があります。

□ 本製品

□ LANケーブル（1本：約3m）
※ストレートケーブル
［カテゴリ5］

本製品とADSL/ケーブルモデムを接続する際、または本製品とパソコンを接続する際に使用

□ ACアダプタ（1個）

☑ 取扱説明書（1冊）

□ ハードウェア保証書（1枚）

□ 「無線LANについて」シール（1枚）

□ ユーザー登録カード（1枚）

ユーザー登録はお済みですか？
「ユーザー登録カード」に登録方法が記載されています。
登録してから次ページへ進みましょう。

動作環境を確認する

本製品の動作環境を確認します。
本製品を使用するには、以下の環境が必要です。

本製品と通信可能な無線LAN機器

IEEE802.11/IEEE802.11b準拠の無線LAN製品と通信できます。

《弊社無線LAN WN-B11シリーズ》
・無線LAN PCカード「WN-B11/PCMH」「WN-B11/PCM」
・無線LAN USBアダプタ「WN-B11/USBH」「WN-B11/USB」
・無線プリントサーバ「WN-B11/PRS」

注意！

■本製品は無線 LAN 接続上ではアクセスポイントとして動作します。そのため、弊社製アクセスポイント「WN-B11/AXP」および他のアクセスポイント（本製品同士も含む）とは通信できません。※アクセスポイント同士の通信はできません。
■以下弊社製製品とは通信できません。
・無線 LAN PC カード「PCWN-W10」
・無線 LAN PC カード「WN-A54 シリーズ」
・コードレスネットワークシンフォニーシリーズ（「WN-S/560」，「WN-S/PCI,」,「PCWN-S」）
・無線スイッチングハブ「WNA-FSWH4」

インターネット接続環境

契約

インターネット・サービスを受けるには、ADSL、CATV、FTTH のいずれか（インターネットサービスプロバイダ：ISP)との契約が必要です。
本製品を導入する前に契約しておいてください。

インターネットへの接続確認

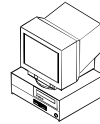
本製品を使用する前に、パソコンをモデムに接続して、インターネットに正常に接続できることを確認しておいてください。

資料の準備

本製品を設定する際にも、インターネットサービスプロバイダから入手した設定用の資料が必要ですので、準備しておいてください。

契約後に取得した IP アドレス(ユーザ ID)について

契約後に、プロバイダからインターネットに接続するための[IP アドレス]（あるいは[ユーザ ID]）を取得します。
取得する IP アドレスは、「固定の IP アドレス」、「サーバーからの自動割り当て」などプロバイダによって異なります。
取得した[IP アドレス]（あるいは[ユーザ ID]）が1つでも、本製品の[NAT/IP マスカレード機能]を利用し、複数台のパソコンでインターネットを利用することができます。

本製品が対応しているパソコン

※本製品は、基本的に“LANインターフェイスを搭載し、TCP/IPが正常に動作するパソコン”であればご利用いただけます。（OSには特に依存しません。）

■Windowsの対応機種■

パソコン本体	・NEC PC98-NX シリーズ ・DOS/V マシン※1

※1　弊社では、OADG 加盟メーカーの DOS/V マシンで動作確認を行っています。

■Mac OSの対応機種■

パソコン本体	Apple Macintosh, Power Macintosh, iMac, iBook, PowerBook

■OS■

弊社では、以下のOSでご利用いただく場合のみをサポート範囲とさせていただいており、UNIX系OSやLinuxなどでご利用いただく場合は保証対象外となります。
また、Apple Talkを無線部で使用する場合は、サポート/保証対象外となります。
（例：AirMacによる無線LAN接続やファイル共有）

サポート対象OS一覧	・日本語 Windows XP ・日本語 Windows 2000 ・日本語 Windows Me ・日本語 Windows 98(Second Edition 含む) ・日本語 Windows 95 ・日本語 Windows NT 4.0 ・Mac OS X（10.1～10.1.5） ・Mac OS 8.0～9.2.2

設定時に必要なソフトウェア

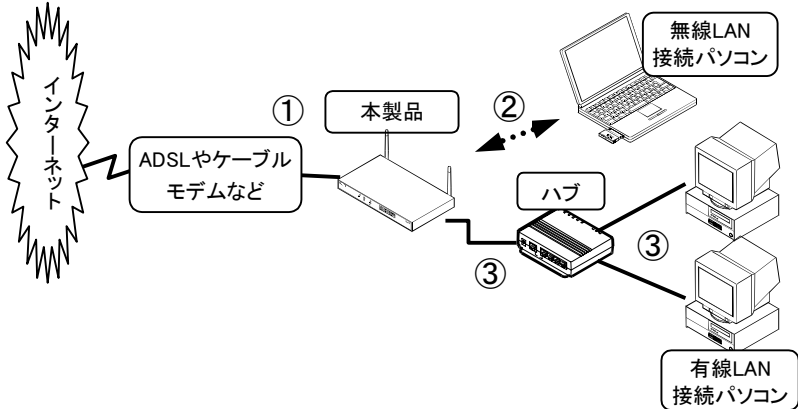
本製品を使用するには設定が必要です。
設定には、本製品に接続できる1台のパソコン(**設定用パソコン**)で行います。また、設定用パソコンにはWebブラウザが必要です。

・Webブラウザ
以下のバージョンのWebブラウザが必要です。
お持ちで無い場合は、別途ご用意ください。
Internet Explorer バージョン5.0以上

本製品に接続可能な有線LAN機器

※次ページ【本製品のLAN接続について】も参照してください。

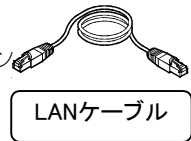
本製品には、ADSL/ケーブルモデム接続用のコネクタ[WAN]と有線LAN接続用の4つのコネクタ[1、2、3、4]があります。
パソコンは最大4台まで直接LANケーブルで接続できます。5台以上接続する場合は、別途ハブと接続用LANケーブルが必要です。

本製品のLAN接続について

インターネット接続するための接続　[上記図①]
（ADSLやケーブルモデムなどとの接続）

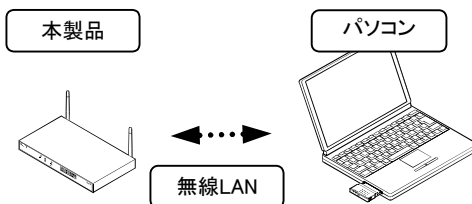
本製品を利用してインターネットをご利用になる場合には、本製品とADSL/FTTH/CATVモデムを、LANケーブルを使用して<u>有線LAN接続</u>する必要があります。

・LANケーブル

接続に使用するケーブルは、本製品を使用する以前にADSLおよびケーブルモデムなどとパソコンを接続してご使用になっていた場合は、モデムとパソコン間で使用していたケーブルをそのままご使用ください。

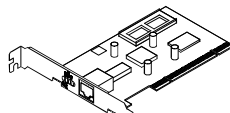
LANケーブル

パソコンとの接続　［前ページ図②および③］
（パソコンのLANアダプタとの接続）

パソコンから本製品を利用（インターネット接続する場合など）するには、本製品とパソコン間をLAN接続する必要があります。
本製品とパソコンのLAN接続には、以下の２つの方法があります。

方法１：無線LAN接続する場合

本製品とパソコンを無線LANで接続できます。（**前ページ図②**）

※無線LANアダプタご利用時には、パソコンへの取り付けと、必要なソフトウェアのインストールが必要です。
（詳細は、無線LANアダプタなどの取扱説明書を参照してください。）

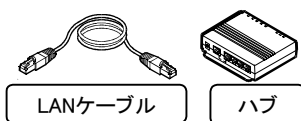
方法２：有線LAN接続する場合

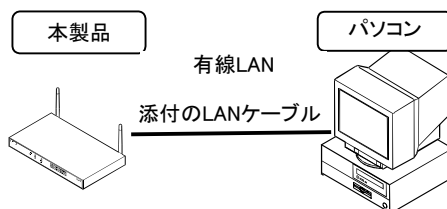
本製品とパソコンを有線LANで接続できます。（**前ページ図③**）
その際、パソコン側にはLANインターフェイスが必要となります。
パソコンにLANインターフェイスが搭載されていない場合は、別途、LANアダプタが必要です。

▼LANアダプタ

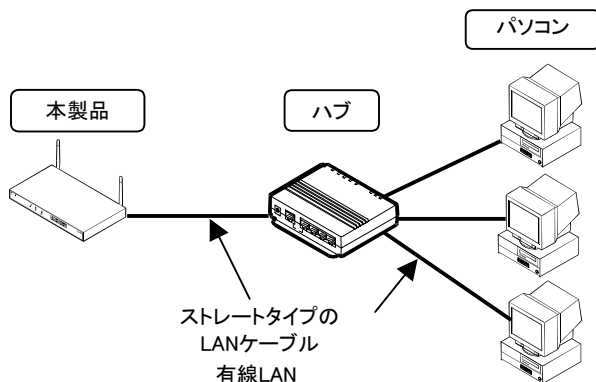
弊社ET100-PCI
シリーズなど

※有線LANアダプタご利用時には、パソコンへの取り付けと、必要なソフトウェアのインストールが必要です。
（詳細は、有線LANアダプタなどの取扱説明書を参照してください。）

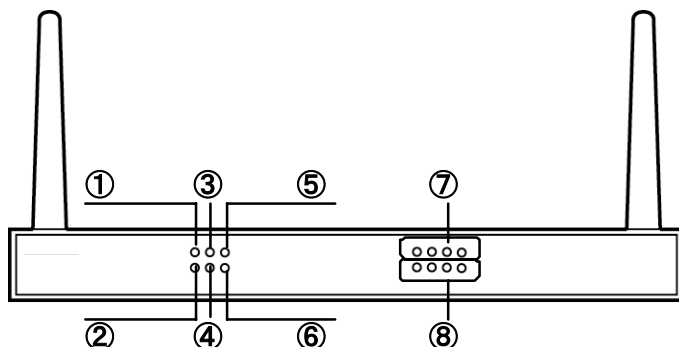
▼LANケーブルとハブ

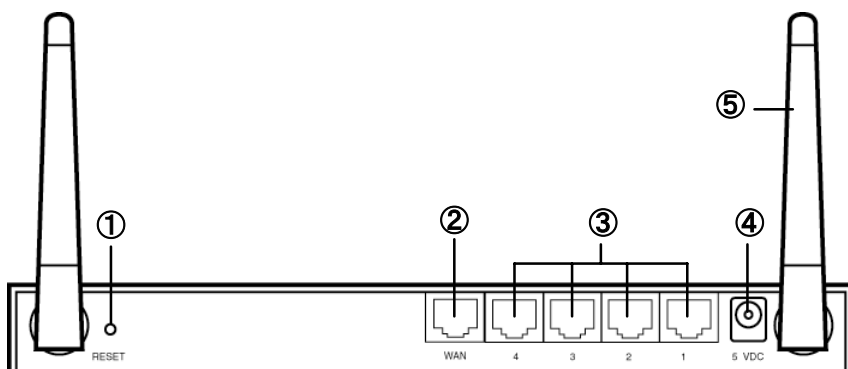
本製品とパソコンを接続するための
LANケーブルおよびハブが必要です。

①直接本製品とパソコンを接続する場合

本製品に直接接続できるパソコンは４台です。
LANケーブルは、**添付のLANケーブル**をお使いください。
２台以上の場合は台数分のストレートタイプのLANケーブルが必要です。この場合、ハブは必要ありません。

②5台以上のパソコンを接続する場合

複数台のパソコンを本製品に接続するには、別途ハブとストレートタイプのLANケーブル（パソコンの台数分）が必要です。
また、本製品とハブ間にもストレートタイプのLANケーブルが必要です。（添付のLANケーブルをご利用ください。）

各部のなまえとはたらき

各部のなまえとはたらきを確認します。

■前面パネル■

No	ランプ	色	意味
①	POWER	緑	点灯：電源が入っている状態
②	W.LAN	緑	点滅：無線LANでデータの送受信が行われている状態
③	M1	緑	点滅：システムが正常動作中の状態
④	M2	緑	点滅：システムが設定中・ファームウェアの更新中の状態
⑤	WAN-LINK	緑	点灯：WAN側が接続されている状態 点滅：WAN側でデータの送受信が行われている状態 消灯：LANケーブルが接続されていない状態
⑥	WAN-SPEED	緑	点灯：100BASE-TXで接続されている状態 消灯：10BASE-Tで接続されている状態、または、LANケーブルが接続されていない状態
⑦	1,2,3,4 LAN-LINK	緑	点灯：有線LANが接続されている状態 点滅：有線LANでデータの送受信が行われている状態 消灯：LANケーブルが接続されていない状態
⑧	1,2,3,4 SPEED	緑	点灯：100BASE-TXで接続されている状態 消灯：10BASE-Tで接続されている状態、または、LANケーブルが接続されていない状態

■背面■

No	名称	用途
①	RESET	本製品の設定内容を工場出荷値に戻します。 詳細は【[RESET]ボタンによる初期設定への戻し方】133ページを参照してください。
②	WAN	ADSLおよびケーブルモデムとLANケーブルで接続するためのコネクタです。 ※10Mbpsと100Mbpsを自動認識します。また、接続されたLANケーブルが、ストレートかクロスかを自動認識します。
③	1, 2, 3, 4	パソコンやハブ(ローカルネットワーク側)を接続するためのコネクタです。 ※10Mbpsと100Mbpsを自動認識します。また、接続されたLANケーブルが、ストレートかクロスかを自動認識します。
④	DC IN [5V DC]	添付のACアダプタを接続します。 DC 5Vを使用します。
⑤	アンテナ	電波の送受信部です。

設定用パソコンをつなぐ

本製品を設定するためにパソコンをLANケーブルで接続します。
有線LAN接続したパソコン１台（設定用パソコン）を本製品に接続します。

ここですること

1 *つなぐ前に確認する*‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 26ページ

本製品を接続する前に、ADSL/CATV経由でインターネットに接続できること、設定用パソコンのIPアドレスを確認しておきます。

▼

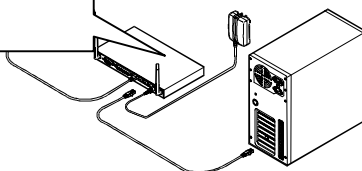
2 *本製品を設置する*‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 31ページ

本製品の設置に関する注意点を確認します。

▼

3 *設定用パソコンをつなぐ*‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 32ページ

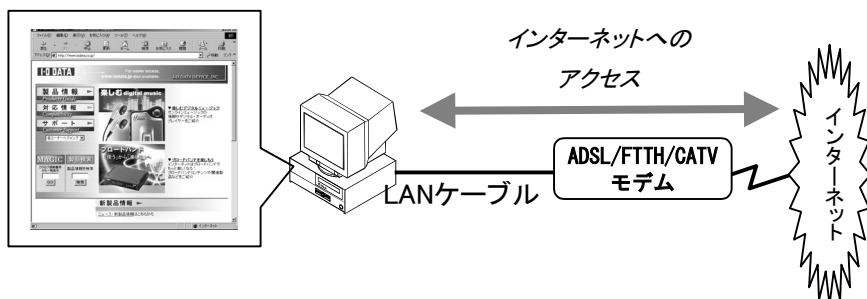
設定用パソコンを本製品に接続します。

※無線LANから設定する場合は必要ありません。

1．つなぐ前に確認する

本製品を接続する前に、インターネットに接続できることと、設定用パソコンのIPアドレスを確認します。

インターネットに接続できることを確認する

1　ADSL/FTTH/CATVモデムに接続してインターネットに接続できることを確認してください。

パソコンの設定は、プロバイダから入手した資料に従って設定してください。

ここではまだ本製品を接続しないでください。
下記の【設定用パソコンのIPアドレスを確認する】もモデムとパソコンを直接つないで行ってください。
本製品との接続は、下記の作業の後に行います。

設定用パソコンのIPアドレスを確認する

次に、設定用パソコンのIPアドレスを確認します。お使いのOSによって確認方法が異なりますので、以下の必要なページのみご覧ください。

・ *Windows XP/2000/NT 4.0の場合*→ 次ページを参照してください。
・ *Windows Me/98/95の場合* → 28ページを参照してください。
・ *Mac OSの場合* → 30ページを参照してください。

●Windows XP/2000/NT 4.0でのIPアドレスの確認

1 ［コマンドプロンプト］を起動します。

・*Windows XPの場合*

［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］をクリックします。

・*Windows 2000の場合*

［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］をクリックします。

・*Windows NT 4.0の場合*

［スタート］→［プログラム］→［コマンドプロンプト］をクリックします。

2 IPCONFIG –ALL　と入力し、［ENTER］キーを押します。

Windows NT 4.0の場合は、1画面に収まらないため、
IPCONFIG –ALL | MORE　　と入力してください。

```
C:¥>IPCONFIG -ALL
```

3 以下のような画面が表示されますので、IPアドレスを確認します。

▼Windows XPでの画面例

```
IP Address. . . . . . . . . . . . : 192.168.0.101
Subnet Mask . . . . . . . . . . . : 255.255.255.0
Default Gateway . . . . . . . . . : 192.168.0.1
DHCP Server . . . . . . . . . . . : 192.168.0.1
DNS Servers . . . . . . . . . . . : 192.168.0.1
```

確認

▼確認したIPアドレスを記入してください。

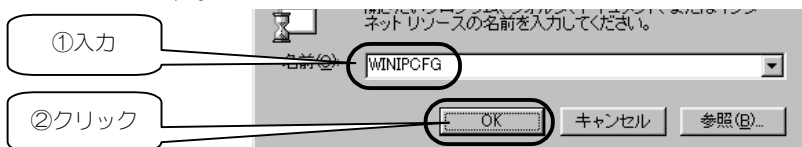
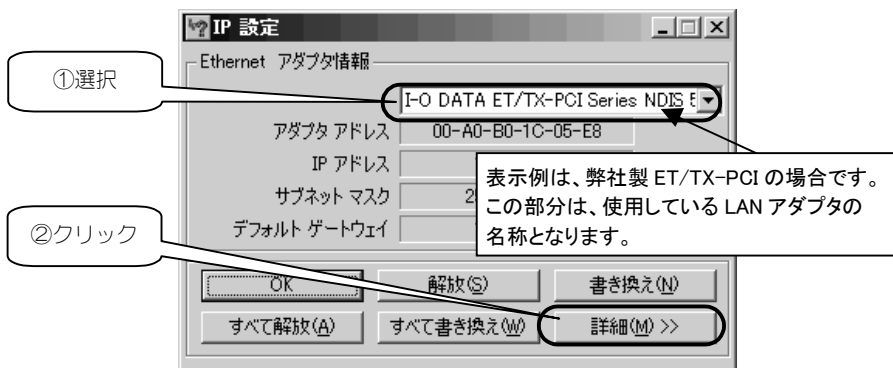
IP アドレス	.　　.　　.

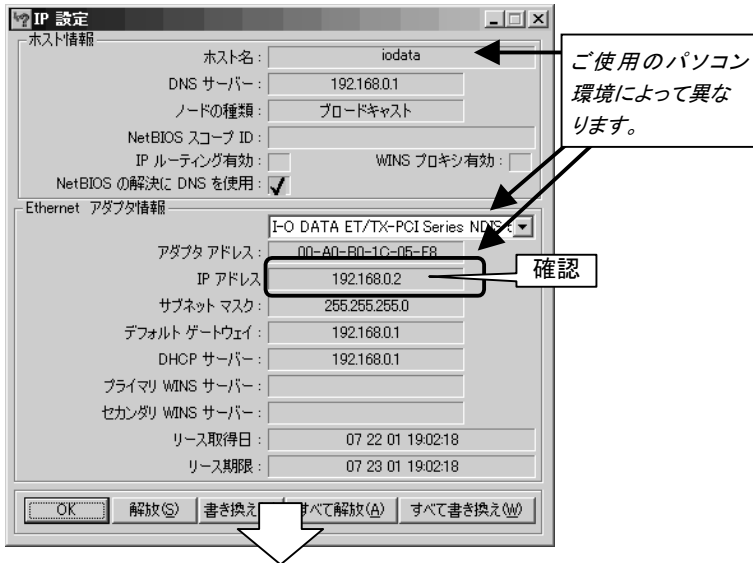
4 EXIT　と入力後、[Enter]キーを押して画面を閉じます。

この後、【2. 本製品を設置する】(31 ページ)にお進みください。

●Windows Me/98/95でのIPアドレスの確認

1 ［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックします。

2 ［名前］に WINIPCFG と入力し、［OK］ボタンをクリックします。

3 お使いのLANアダプタを選択し、［詳細］ボタンをクリックします。

4 以下のような画面が表示されますので、IPアドレスを確認します。

（WINIPCFGの画面例）

5 ［OK］ボタンをクリックし、画面を閉じます。

この後、【2. 本製品を設置する】(31ページ)にお進みください。

●Mac OS（Classic）でのIPアドレスの確認

1 ［アップルメニュー］→［コントロールパネル］内の［TCP/IP］をクリックします。

2 ［経由先：］でお使いのLANアダプタを選択します。

3 表示された［IPアドレス］を確認してください。

▼確認したIPアドレスを記入してください。

IP アドレス	. . .

この後、【2. 本製品を設置する】(次ページ)にお進みください。

●Mac OS XでのIPアドレスの確認

1 ［アップルメニュー］→［場所］→［ネットワーク環境設定］をクリックします。

2 ［表示：］でお使いのLANアダプタを選択します。

3 表示された［IPアドレス］を確認してください。

▼確認したIPアドレスを記入してください。

IP アドレス	. . .

この後、【2. 本製品を設置する】(次ページ)にお進みください。

2. 本製品を設置する

本製品を設置する際には、周辺の環境に充分注意してください。
本製品は、電波によって通信を行いますので、環境によっては正常に通信できなくなる場合があります。

注意！

本製品は以下のように設置してください。

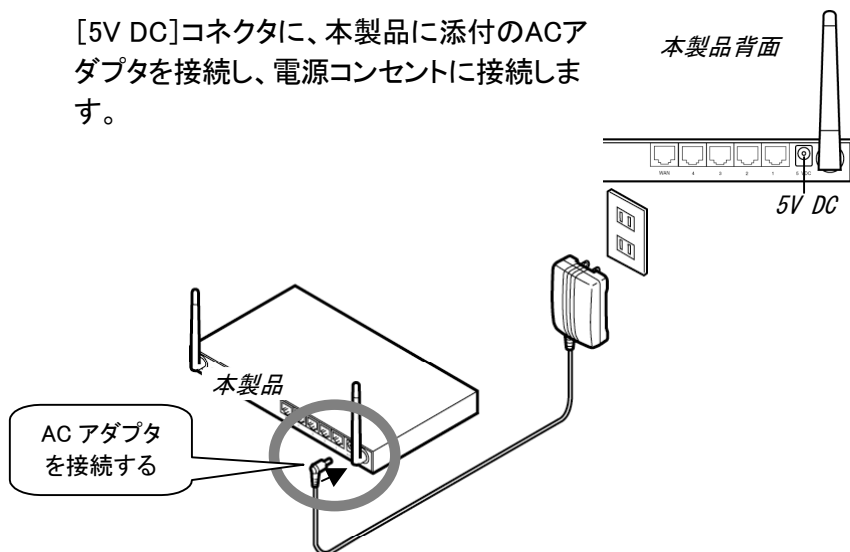
- **本製品と通信する機器は、なるべく見通せるようにしてください。**
  間に障害物（金属や建物や樹木など）があると、通信できない場合や到達距離が短くなる場合があります。
  また、本製品と通信する機器間に電磁波を発生する機器（高圧電線など）があると、そこから発する磁界によって到達距離が短くなる場合があります。
- **本製品の AC アダプタ、電源ケーブルからは、できるだけ離してください。**
- **AC アダプタは必ず添付のものをご使用ください。**

[5V DC]コネクタに、本製品に添付のACアダプタを接続し、電源コンセントに接続します。

本製品背面

5V DC

本製品

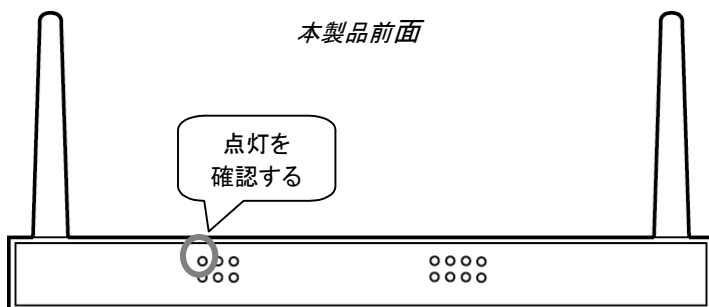
ACアダプタ
を接続する

3．設定用パソコンをつなぐ

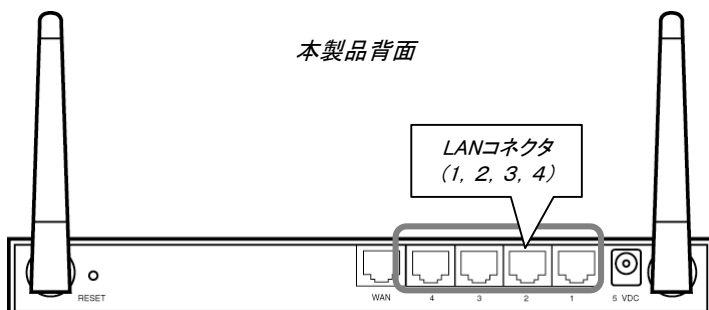
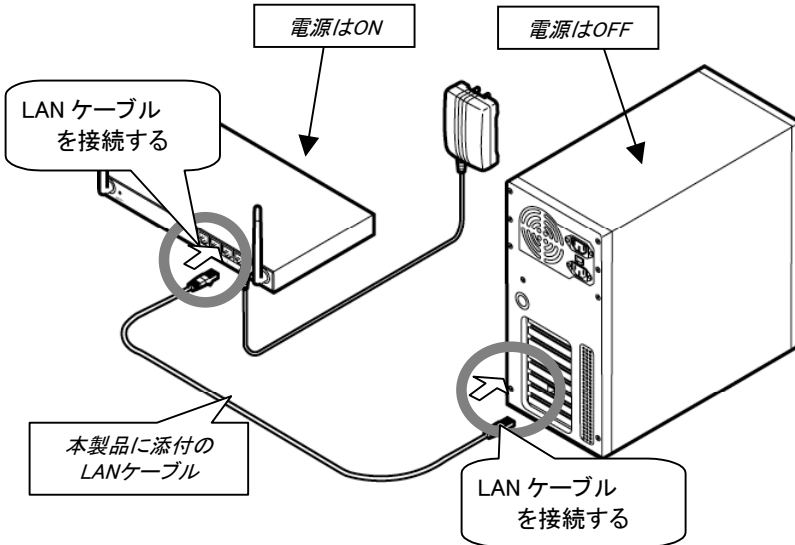
本製品は有線LAN接続または無線LAN接続したパソコンのどちらからでも設定できます。ここでは、有線LAN接続したパソコンから本製品を設定する手順について説明します。

無線 LAN 接続したパソコンから設定する場合は、以下の接続作業は必要ありません。【設定準備する】(35 ページ)へお進みください。

1 パソコンの電源が切れていることを確認します。

2 本製品の［POWER］ランプが緑色に点灯していることを確認します。

本製品前面

3 添付のLANケーブルで本製品のLANコネクタ（１、２、３、４のいずれか）とパソコンを接続します。（次ページ図参照）

本製品背面

・パソコンの電源はこの後の【設定準備をする】で入れます。
パソコンの電源を入れる際は、必ず本製品の電源が入っている状態で、かつ、LAN ケーブルを接続している状態で行ってください。
・パソコンと本製品を接続する LAN ケーブルは、添付のケーブルを使用してください。
また、市販の LAN ケーブルでも使用できます。

参考

・パソコンと接続する本製品側の LAN コネクタ（[1]～[4]）は、いずれのコネクタでもご利用いただけます。
（[WAN]コネクタは、本製品とモデムを接続するコネクタです。）
・本製品の LAN コネクタは、ストレート/クロスタイプを自動識別します。
（Auto MDI/MDI-X 機能）よって、使用ケーブルがストレート/クロスのいずれであっても、問題なく使用できます。

設定準備をする

ここでは、本製品を設定する設定用パソコンの設定について説明します。

ここですること

1 *無線LAN設定*……………………36ページ

無線LANの設定をします。

※有線LAN接続したパソコンから設定する場合は必要ありません。

▼

2 *IPアドレスを設定する*……………42ページ

設定用パソコンのIPアドレスを設定します。

▼

3 *IPアドレスを確認する*……………54ページ

*2*で設定したIPアドレスを確認します。

▼

4 *Webブラウザを設定する*…………58ページ

設定はWebブラウザを使用して行いますので、Webブラウザの接続設定をします。

▼

5 *メニュー画面を起動する*…………67ページ

本製品を設定するためのメニュー画面を起動します。

1．無線LAN設定

無線LANから本製品を設定する場合は、最初に設定用パソコンから本製品と無線LANで通信できるように設定する必要があります。

- LAN ケーブルを接続してから設定する場合は、無線 LAN の設定は必要ありません。【2. IP アドレスを設定する】(42 ページ)へお進みください。
- すでに弊社製無線 LAN アダプタ製品(WN-B11/PCM、WN-B11/USB、WN-B11/PCI)をお使いの場合で、Windows XP から本製品をご利用になる場合は、弊社ホームページ上の「サポートソフト」や「ファームウェアソフト」が必要になります。
  詳細は、弊社ホームページの「サポートライブラリ」(http://www.iodata.jp/lib/)をご覧になり、必要なソフトウェアを入手してください。

無線LANアダプタを設定する

無線LANから設定する場合、無線LANを搭載したパソコン（無線LANアダプタ）側を、本製品につながるよう設定する必要があります。
設定内容は、パソコン（無線LANアダプタ）側の設定を本製品の以下の初期値と一致させる作業です。設定方法は無線LANアダプタの取扱説明書をご覧ください。また、次ページ以降の手順を参考にしてください。

《無線LANから設定する場合の設定内容》

項目	本製品の初期値	無線LANアダプタ側で設定する値
通信モード	Infrastructure	[Infrastructure](インフラストラクチャ)に設定
SSID (ESS-ID)	default	[default]に設定
チャンネル	6 ch	設定の必要はありません。 ※インフラストラクチャモードで動作させる場合は、無線LANアダプタが本製品のチャンネルへ自動的に合わせるので設定の必要はありません。 ※弊社製無線LANアダプタの場合は、インフラストラクチャモードの場合、チャンネルを設定できない仕様となっています。
暗号キー (WEP Key)	無効	[無効]に設定

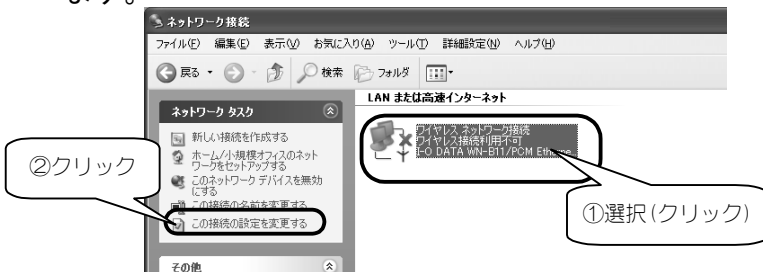
Windows XPでの設定例

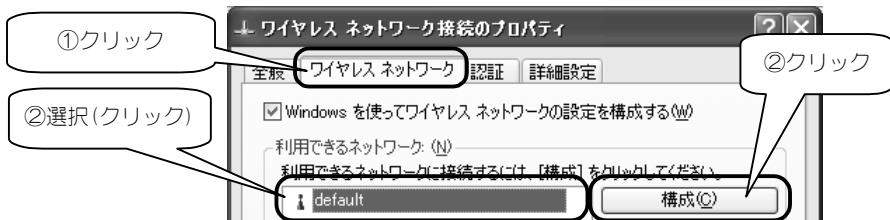
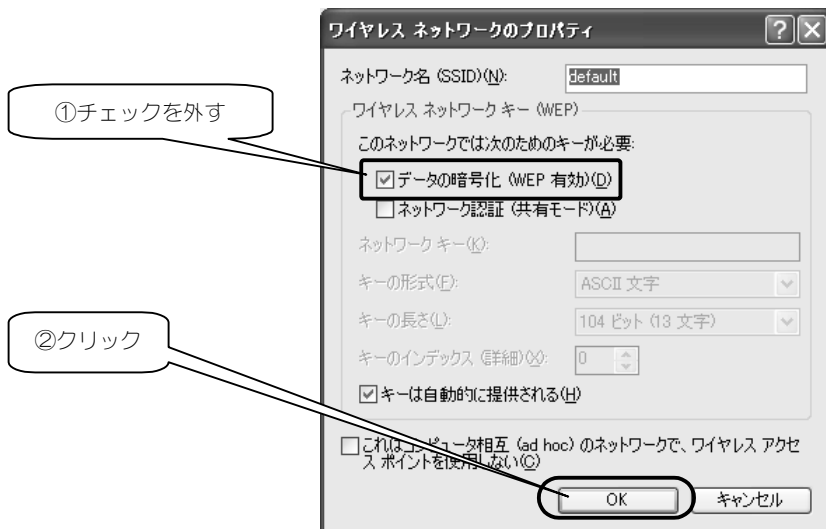
1 [スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。

2 [ネットワークとインターネット接続]をクリックします。

[クラシック表示]の場合は、[ネットワーク接続]アイコンをクリックして手順4へお進みください。

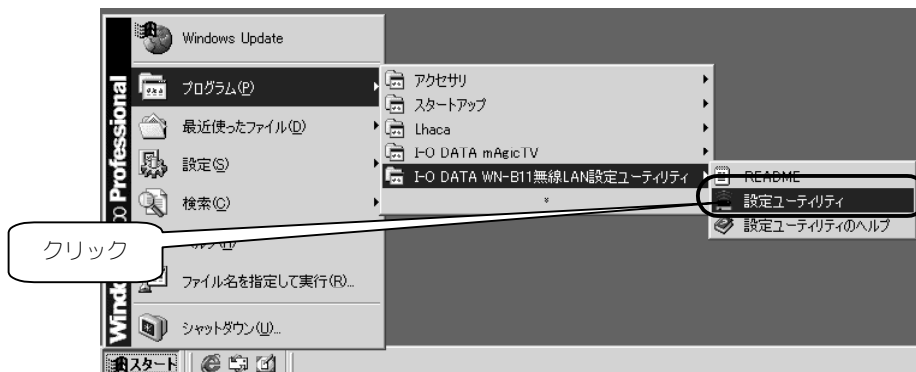
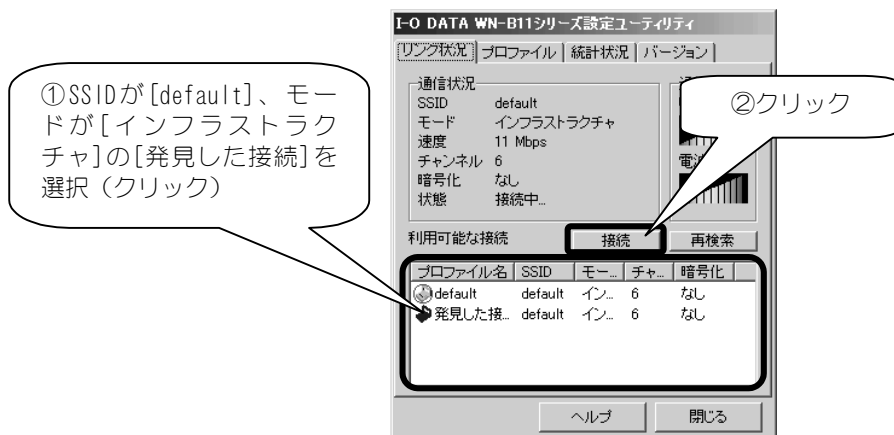
3 [ネットワーク接続]をクリックします。

4 インストール済みの[ワイヤレス ネットワーク接続]アイコンを選択後、[この接続の設定を変更する]をクリックします。

Windows XPでの設定例（つづき）

5 以下の操作をします。
①[ワイヤレス ネットワーク]タブをクリックします。
②[利用できるネットワーク]中の[default]を選択します。
③[構成]ボタンをクリックします。

6 [ワイヤレス ネットワークのプロパティ]画面が表示されますので、[データ暗号化(WEP 有効)]のチェックを外し、[OK]ボタンをクリックします。

7 [ワイヤレス ネットワーク接続のプロパティ]へ戻りますので[OK]ボタンをクリックします。

WN-B11/PCMH設定ユーティリティでの設定例

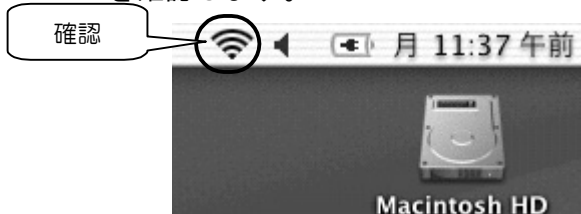
1 設定ユーティリティを起動します。

［スタート］→［プログラム］→［I-O DATA WN-B11無線LAN設定ユーティリティ］→［設定ユーティリティ］を順にクリックします。

2 設定ユーティリティで、下記の設定をします。

Mac OS XでのAirMac設定例

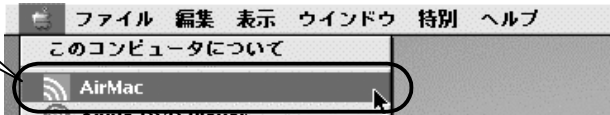
Apple Talk は無線部での使用はサポート対象外となります。あらかじめご了承ください。

1 メニューバーのAirMacアイコンをクリックし、[AirMacを入にする]を選択します。

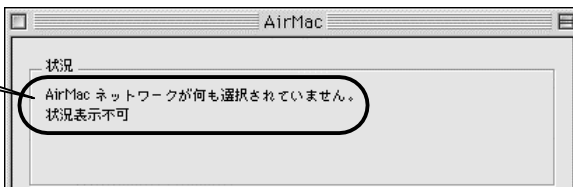
2 AirMacのメニューから[default]を選択します。

3 メニューバー上のAirMacアイコンが になっていることを確認します。

Mac OS（Classic）でのAirMac設定例

Apple Talk は無線部での使用はサポート対象外となります。あらかじめご了承ください。

1 ［アップルメニュー］→［AirMac］をクリックします。

2 ［AirMacネットワーク］内の［ネットワークの選択］で［default］を選択します。

3 ［状況］内に［状況表示不可］の表示があることを確認します。

※本製品は、［状況表示不可］で正常です。

2. IPアドレスを設定する

本製品を使用するには、設定用パソコンのIPアドレスを、自動的に取得する設定（[IPアドレスを自動的に取得]、[DHCPサーバーから取得]など）にする必要があります。

本製品を使用するには、有線 LAN および無線 LAN に限らず、また、設定用パソコンを含め接続するすべてのパソコンの IP アドレスを設定する必要があります。
本製品購入時には、本製品が[DHCP サーバー]という IP アドレスをパソコンに"自動的に割り振る"設定となっていますので、パソコン側では、「IP アドレスを自動的に取得する」設定（[IP アドレスを自動的に取得]、[DHCP サーバーから取得]など）にしておけば、パソコン起動時に、自動的に本製品から IP アドレスを取得できるようになります。
本書では、本製品を[DHCP サーバー]、パソコン側を IP アドレスを自動的に取得する設定[DHCP クライアント]として設定する方法を説明します。
DHCP については、155 ページを参照してください。

設定用パソコンのIPアドレスを設定します。
設定はご使用のOSによって異なります。以下の該当するページへお進みください。

・ *Windows XPをお使いの場合* → 次ページを参照してください。
・ *Windows 2000をお使いの場合* → 45ページを参照してください。
・ *Windows Me/98/95をお使いの場合* → 47ページを参照してください。
・ *Windows NT 4.0をお使いの場合* → 50ページを参照してください。
・ *Mac OS Xをお使いの場合* → 52ページを参照してください。
・ *Mac OS(Classic)をお使いの場合* → 53ページを参照してください。

Windows XPでIPアドレスを設定する

1 コンピュータの管理者のアカウントでログオンします。

2 [スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。

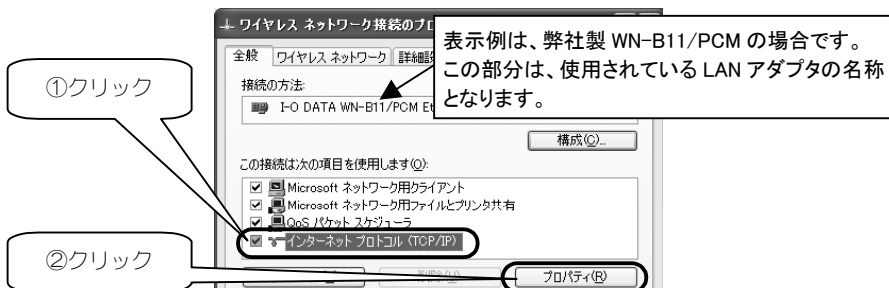
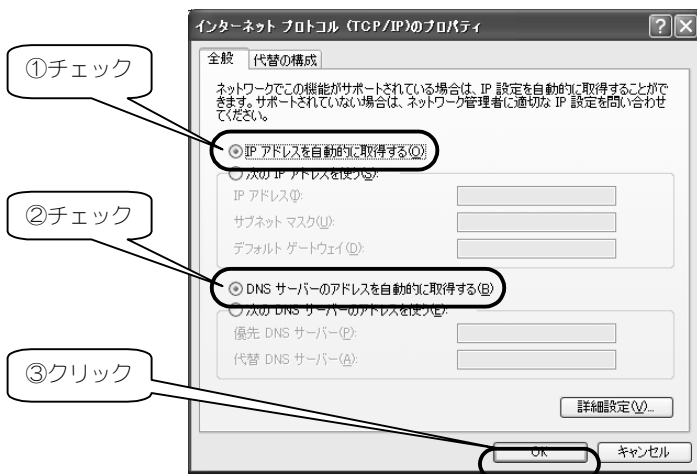
3 [ネットワークとインターネット接続]をクリックします。

[クラシック表示]の場合は、[ネットワーク接続] アイコンをダブルクリックして手順5へお進みください。

4 [ネットワーク接続]をクリックします。

5 [ネットワーク接続]では、インストール済みのネットワーク接続アイコンが表示されますのでアイコンを選択後、[この接続の設定を変更する]をクリックします。

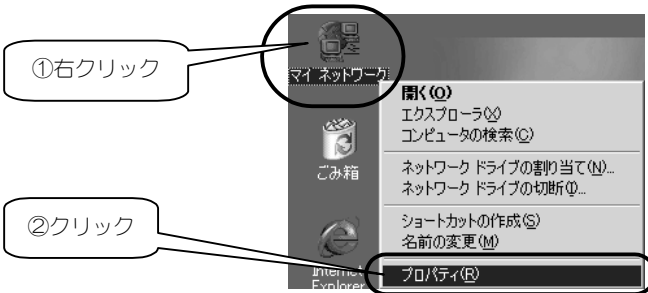
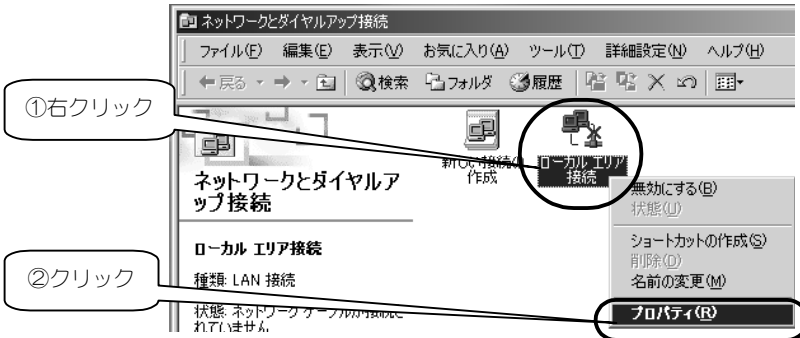
Windows XPでIPアドレスを設定する（つづき）

6 [全般]タブで[インターネットプロトコル]をクリック後、[プロパティ]ボタンをクリックします。

7 [IPアドレスを自動的に取得する]をチェックし、[DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する]をチェック後、[OK]ボタンをクリックします。

8 すべての画面を閉じて、パソコンを再起動します。

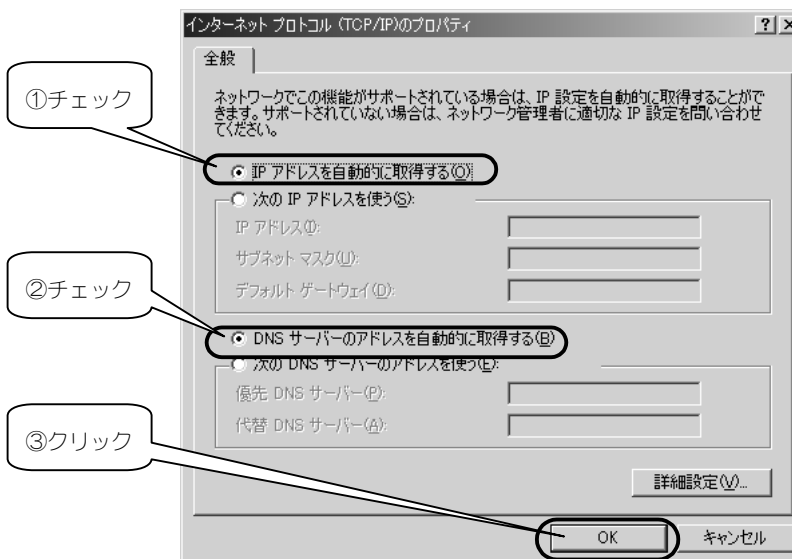
この後、【3. IP アドレスを確認する】(54 ページ)を参照して、パソコンに IP アドレスが正常に取得できているかを確認してください。

Windows 2000でIPアドレスを設定する

1 Administrator権限でWindows 2000にログオンします。

2 [マイ ネットワーク]を右クリックし、
メニュー内の[プロパティ]をクリックします。

3 [ローカルエリア接続]を右クリックし、メニュー内の
[プロパティ]をクリックします。

Windows 2000でIPアドレスを設定する（つづき）

4 [インターネットプロトコル(TCP/IP)]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。

5 [IPアドレスを自動的に取得する]をチェックし、[DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する]をチェック後、[OK]ボタンをクリックします。

6 すべての画面を閉じて、パソコンを再起動します。

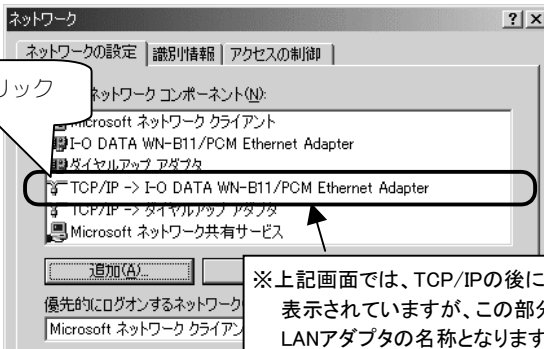
この後、【3. IP アドレスを確認する】(54 ページ)を参照して、パソコンに IP アドレスが正常に取得できているかを確認してください。

Windows Me/98/95でIPアドレスを設定する

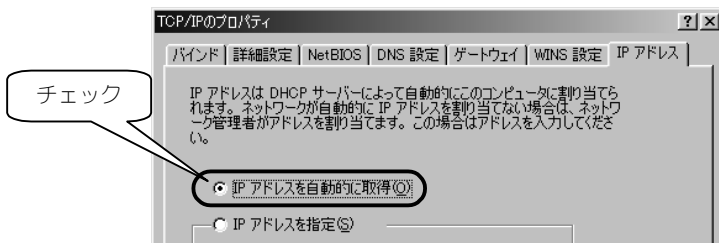
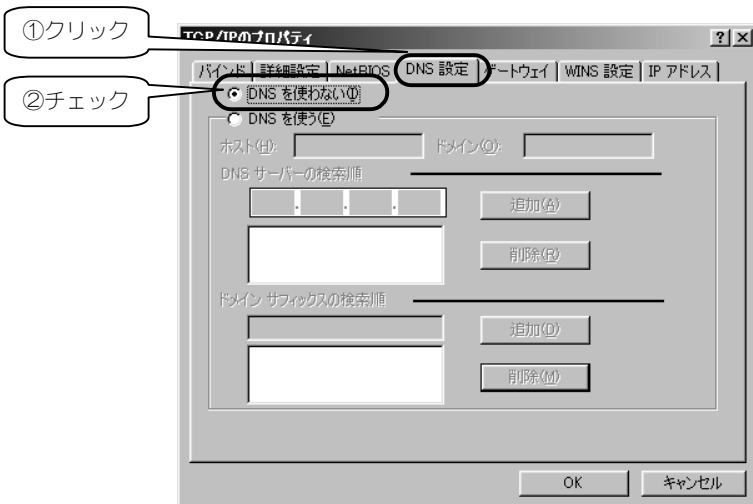
1 [マイ ネットワーク](または[ネットワークコンピュータ])を右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。

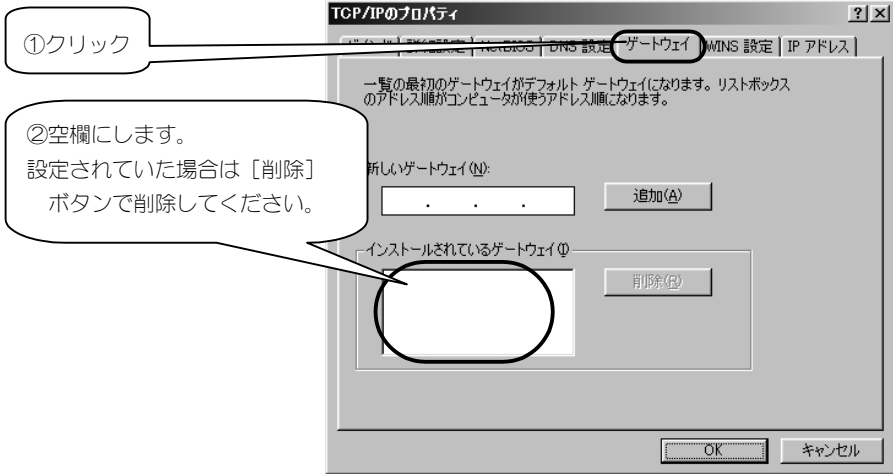
2 [TCP/IP](あるいは[TCP/IP -> xxxxxxx])をダブルクリックします。

(xxxxxxxxはLANアダプタの名称です。)

※アダプタが複数ある場合に、[TCP/IPー>xxxxxxxx]と表示されます。
[TCP/IPー>xxxxxxxx]をダブルクリックしてください。

【困ったときには】の
141ページを
ご参照ください。

Windows Me/98/95でIPアドレスを設定する（つづき）

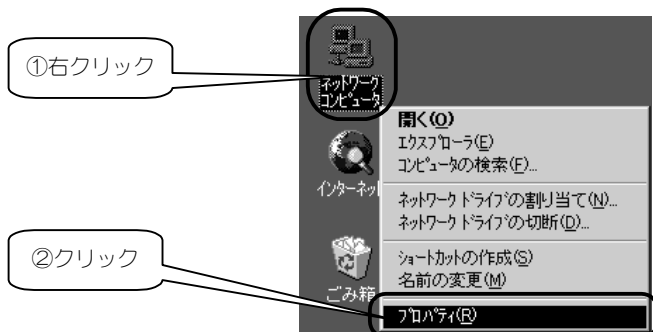
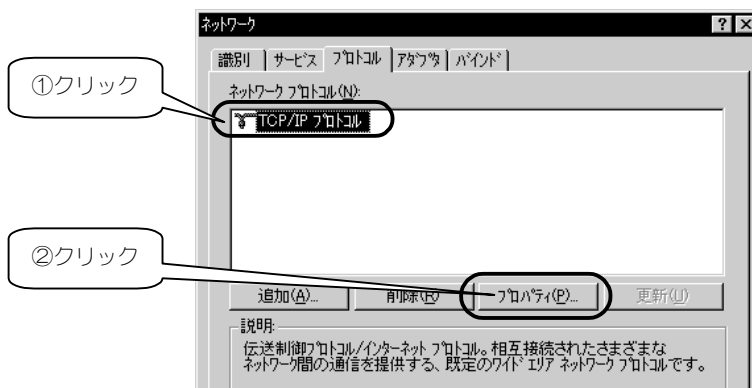
3 [IPアドレスを自動的に取得]をチェックします。

4 [DNS設定]タブをクリック後、
[DNSを使わない]をチェックします。

Windows Me/98/95でIPアドレスを設定する（つづき）

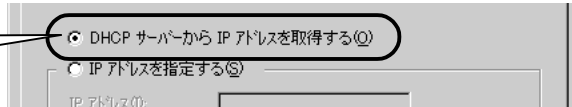
5 [ゲートウェイ]タブをクリック後、
すでに設定されているゲートウェイがある場合は、[削除]ボタンで設定を削除してください。

6 [OK]ボタンをクリック後、パソコンを一度再起動します。

この後、【3. IP アドレスを確認する】(54 ページ)を参照して、パソコンに IP アドレスが正常に取得できているかを確認してください。

Windows NT 4.0でIPアドレスを設定する

1 Administrator権限でWindows NT 4.0にログオンします。

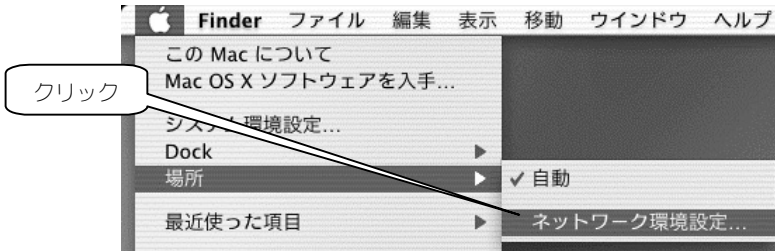
2 [ネットワークコンピュータ]を右クリックし、
メニュー内の[プロパティ]をクリックします。

3 [TCP/IP プロトコル]をクリックし、
[プロパティ]ボタンをクリックします。

Windows NT 4.0でIPアドレスを設定する（つづき）

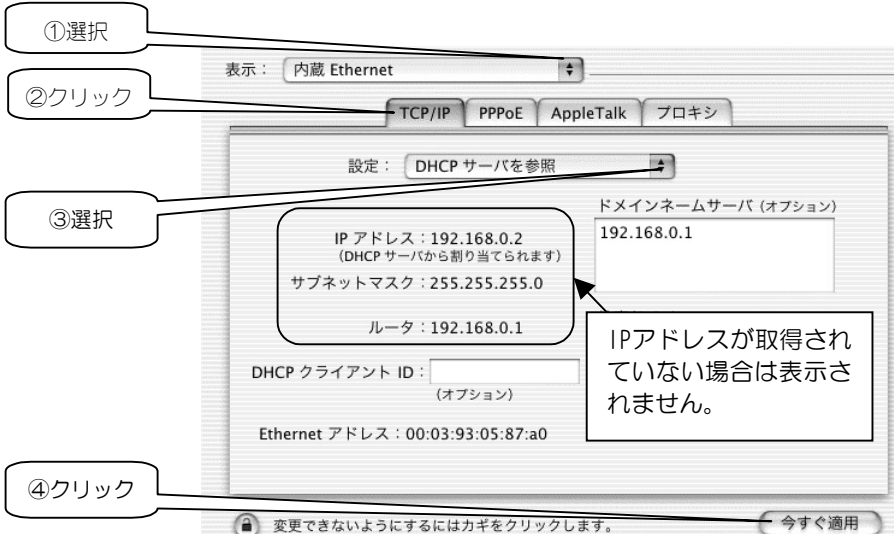
4 [IPアドレス]タブで[DHCPサーバーからIPアドレスを取得する]をチェックします。

5 [DNS]タブをクリック後、
すでに設定されているDNSサービスがある場合は、[削除]ボタンで削除してください。

6 [OK]ボタンをクリック後、パソコンを再起動します。

この後、【3. IP アドレスを確認する】(54 ページ)を参照して、パソコンに IP アドレスが正常に取得できているかを確認してください。

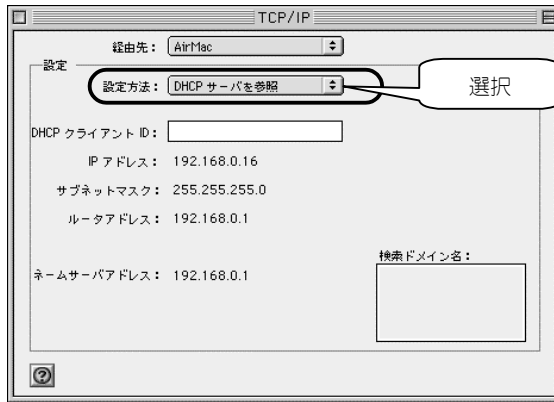
Mac OS XでIPアドレスを設定する

1 [場所]→[ネットワーク環境設定]をクリックしします。

2 ネットワーク環境設定をします。

①[表示]で、ご使用のLANアダプタ（内蔵Ethernetなど）を選びます。
②[TCP/IP]をクリックします。
③[設定]で[DHCPサーバを参照]を選びます。
④[今すぐ適用]をクリックします。

この後、【3．IP アドレスを確認する】を読み飛ばし、
58 ページの【4．Web ブラウザを設定する】をご覧ください。

Mac OS(Classic)でIPアドレスを設定する

1 [アップルメニュー] → [コントロールパネル] 内の [TCP/IP] をクリックします。

2 [DHCPサーバを参照] を選択し、画面を閉じます。

この後、【3．IP アドレスを確認する】を読み飛ばし、
58 ページの【4．Web ブラウザを設定する】をご覧ください。

３．IPアドレスを確認する

ここでは、【２．IP アドレスを設定する】で自動的に取得する設定にした IP アドレスが、正常に取得できているかを確認します。

・ *Windows XP/2000/NT 4.0の場合*	→	以下を参照してください。
・ *Windows Me/98/95の場合*	→	56ページを参照してください。

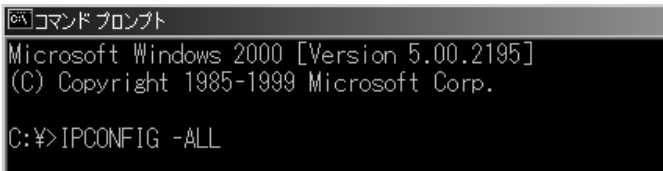
Windows XP/2000/NT 4.0

1 ［コマンドプロンプト］を起動します。

・Windows XPの場合

［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］をクリックします。

・Windows 2000の場合

［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］をクリックします。

・Windows NT 4.0の場合

［スタート］→［プログラム］→［コマンドプロンプト］をクリックします。

2 IPCONFIG –ALL

と入力し、［ENTER］キーを押します。

（Windows NT 4.0の場合は、1画面に収まらないため、
IPCONFIG –ALL ｜ MORE　と入力してください。）

```
コマンド プロンプト
Microsoft Windows 2000 [Version 5.00.2195]
(C) Copyright 1985-1999 Microsoft Corp.

C:¥>IPCONFIG -ALL
```

Windows XP/2000/NT 4.0（つづき）

3 以下および次ページのような画面が表示されます。

以下および次ページの画面で、それぞれ次の値(アドレス)となっていることを確認します。

①	IP Address	192.168.0.xxx　(xxx は2～32)
②	Subnet Mask	255.255.255.0
③	Default Gateway	192.168.0.1
④	DHCP Server	192.168.0.1
⑤	DNS Servers	192.168.0.1

(Windows XPでの画面例)

【困ったときには】の139ページをご覧ください。

上記はそれぞれ以下の内容です。

①[IP Address]…本製品から割り当てられたパソコンの IP アドレス値

②[Subnet Mask]…本製品から割り当てられたパソコンのサブネットマスク値

③[Defalt Gateway]…本製品から割り当てられたパソコンのデフォルトゲートウェイ値（本製品の IP アドレスです。）

④[DHCP Server]…本製品から割り当てられたパソコンの DHCP サーバ値（本製品の IP アドレスです。）

⑤[DNS Servers]…本製品から割り当てられたパソコンの DNS サーバ値（本製品の IP アドレスです。プロバイダへ接続後に IP アドレスを取得した場合は、プロバイダの DNS アドレスが割り当てられます。）

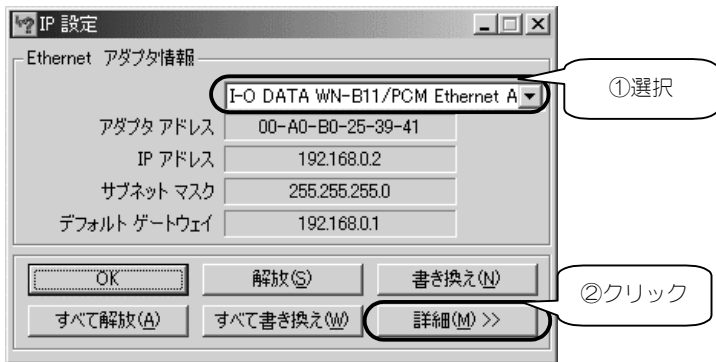
4 EXIT　と入力後、[Enter]キーを押して画面を閉じます。

この後、【４．Web ブラウザを設定する】(58 ページ)へお進みください。

Windows Me/98/95でのIPアドレスの確認

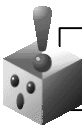
1 [スタート]→[ファイル名を指定して実行]をクリックします。

2 [名前]に　WINIPCFG　と入力し、[OK]ボタンをクリックします。

3 お使いのLANアダプタを選択し、[詳細]ボタンをクリックします。

4 [IP設定]画面では、それぞれ次の値（アドレス）となっていることを確認します。

①	DNSサーバー	192.168.0.1
②	IPアドレス	192.168.0.xxx　（xxx　は2～32）
③	サブネットマスク	255.255.255.0
④	デフォルトゲートウェイ	192.168.0.1
⑤	DHCPサーバー	192.168.0.1

Windows Me/98/95でのIPアドレスの確認（つづき）

（WINIPCFGの画面例）

正常に IP アドレスが取得（表示）されていない場合は…

【困ったときには】の 139 ページをご参照ください。

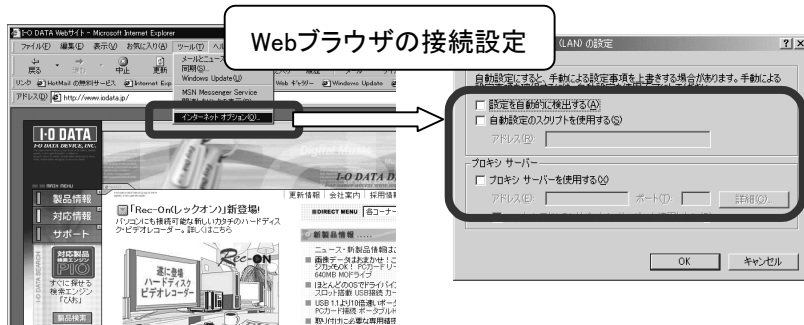
上記の①～⑤の値はすべて本製品から割り当てられた値（アドレス）です。
上記①、④、⑤は本製品の IP アドレスの値です。ただし、①の値は、プロバイダへ接続後に IP アドレスを取得した場合は、プロバイダの DNS アドレスが割り当てられます。

5 ［OK］ボタンをクリックし、画面を閉じます。

この後、【4. Web ブラウザを設定する】（次ページ）を参照して、Web ブラウザを設定してください。

4. Webブラウザを設定する

本製品の設定や本製品経由でインターネットに接続するには、Web ブラウザの接続設定をしておく必要があります。下記２点に注意し設定してください。

①LANを使用してインターネットに接続する。
②プロキシサーバーを設定する。

Web ブラウザは、【本製品を導入する上で必要なもの】の【設定時に必要なソフトウェア】（18 ページ）の項を参照して、必要なバージョンをご確認ください。
なお、本製品に Web ブラウザは添付しておりません。
Web ブラウザがない、あるいは Web ブラウザのバージョンが古い場合は、正常に設定できませんので、必ず必要なバージョン以降をご用意ください。

・ *Windowsをお使いの場合*	→ 次ページを参照してください。
・ *Mac OS Xをお使いの場合*	→ 63ページを参照してください。
・ *Mac OS（Classic）をお使いの場合*	→ 65ページを参照してください。

WindowsでのWebブラウザの設定

プロバイダによっては、プロキシについての設定を指示している場合があります。まず、プロバイダから入手した資料をご用意ください。

1 [Internet Explorer]画面を表示させます。

・Windows XPの場合

[スタート]→[すべてのプログラム]→[Internet Explorer]（または[インターネット Internet Explorer]）をクリックします。

・Windows 2000、Windows Me/98/95、Windows NT 4.0の場合

デスクトップ画面上の[Internet Explorer]アイコンをダブルクリックします。

この時点でインターネットに接続されていない場合は、「ページを表示できません」など正常に画面が表示されませんが、ここでは Internet Explorer 自体の設定を行うため、この時点で正常に画面が表示されていなくても問題ありません。

2 [Internet Explorer]画面の
[ツール]メニューの[インターネット オプション]をクリックします。
※本手順以降、画面は[Internet Explorer 6.0]を例にしています。

3 [接続]タブをクリックし、
[ダイヤルしない]をチェックします。続けて、[LANの設定]ボタンをクリックします。

4 プロバイダからの資料を参照し、[プロキシ]に関する設定の指示がないか確認し、以下の設定を行います。

・プロバイダから[プロキシ]に関する設定の指示がない場合

・プロバイダから[プロキシ]に関する設定の指示がある場合

①チェックを外す

②チェックを入れる

③プロバイダの指示に従って設定する

④クリック

ローカル エリア ネットワーク (LAN) の設定

自動構成

自動構成にすると、手動による設定事項を上書きする場合があります。手動による設定事項を確保するには、自動構成を使用不可にしてください。

設定を自動的に検出する(A)

自動構成スクリプトを使用する(S)

アドレス(R):

プロキシ サーバー

LAN にプロキシ サーバーを使用する (これらの設定はダイヤルアップまたは VPN 接続には適用されません)(X)

アドレス(E): xxx.xxx.xxx.xxx ポート(T): 80 詳細設定(C)...

ローカル アドレスにはプロキシ サーバーを使用しない(B)

OK キャンセル

プロキシの設定

サーバー

種類 使用するプロキシのアドレス ポート

HTTP(H): xxx.xxx.xxx.xxx : 80

⑤本製品の IP アドレス（出荷時の場合は 192.168.0.1 ）を入力

すべてのプロトコルに同じプロキシ サーバーを使用する(U)

次で始まるアドレスにはプロキシを使用しない(N):

192.168.0.1

セミコロン (;) を使用してエントリを分けてください。

⑥クリック

OK キャンセル

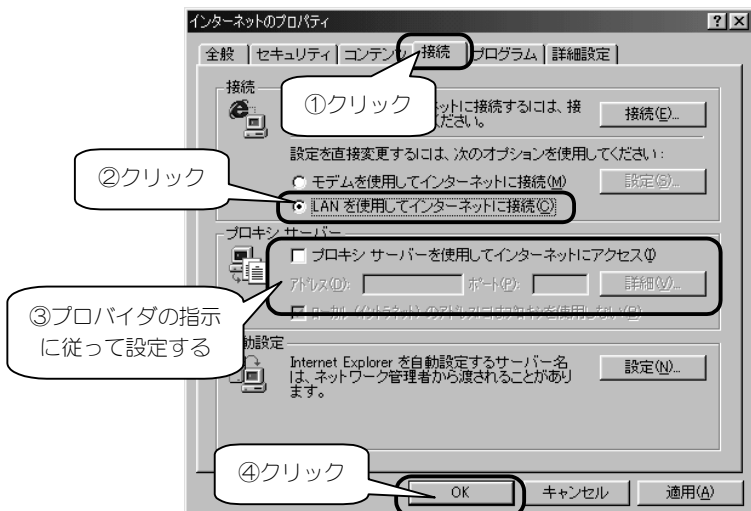
すでに他の IP アドレスを設定している場合は、 ;192.168.0.1 のように前に ;（セミコロン）を付けて追加してください。

5 ［ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定］画面で［OK］ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

6 ［インターネット オプション］（または［インターネットのオプション］）画面へ戻りますので、［OK］ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

設定後、【5. メニュー画面を起動する】(67 ページ)へお進みください。

Internet Explorer のバージョンによっては、*3* の手順の時に以下の画面となる場合があります。
その場合は、［接続］タブで［LAN を使用してインターネットに接続］をチェックします。
その後、以下の手順を行います。

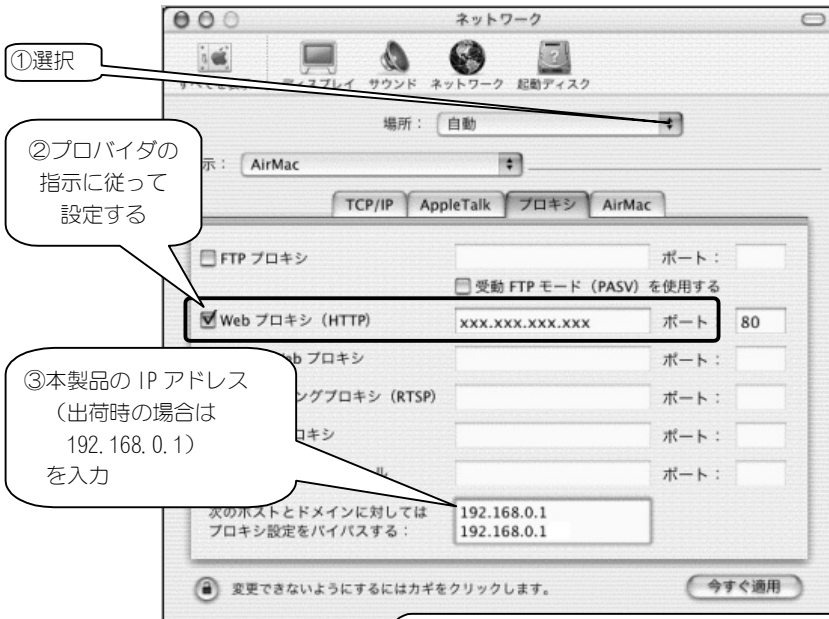
- **・プロバイダからプロキシに関する設定の指示がない場合**
  ［プロキシサーバーを使用してインターネットにアクセス］のチェックを外し、［OK］ボタンをクリックします。
- **・プロバイダからプロキシに関する設定の指示がある場合**
  ［プロキシサーバーを使用してインターネットにアクセス］をチェックし、［アドレス］と［ポート］を入力後、［詳細］ボタンをクリックします。
  ［プロキシの設定］画面での設定は、前ページを参照してください。
  設定後、［OK］ボタンをクリックします。

Mac OS Xでの設定

1 インターネットを利用する場合で、プロバイダから[プロキシ]に関する設定の指示がある場合は、設定用パソコンのプロキシ設定を確認・設定します。

①[Appleメニュー]→[場所]→[ネットワーク環境設定]をクリックします。

②[プロキシ]タブを選択します。

③プロバイダの指示に従い、[Webプロキシ]の設定をします。

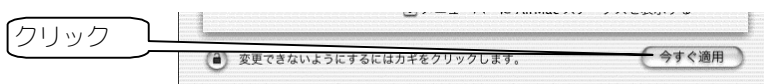
④本製品のIPアドレスを[プロキシ設定をバイパスする]に入力します。

すでに他の IP アドレスを設定している場合は、改行して本製品の IP アドレスである 192.168.0.1 を追加してください。

2 設定用パソコンのAirMac設定を確認・設定します。

①[AirMac]タブを選択します。

②[優先するネットワーク]のプルダウンメニューから[default]を選択します。

※選択できない場合は[default]を手入力してください。

3 [今すぐ適用]ボタンをクリックします。

4 タイトルバーの(×)ボタンをクリックして画面を閉じます。

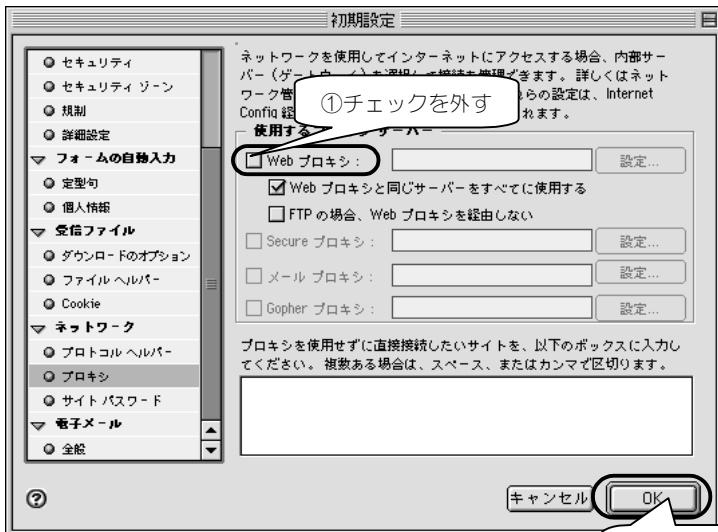
設定後、【5. メニュー画面を起動する】(67 ページ)へお進みください。

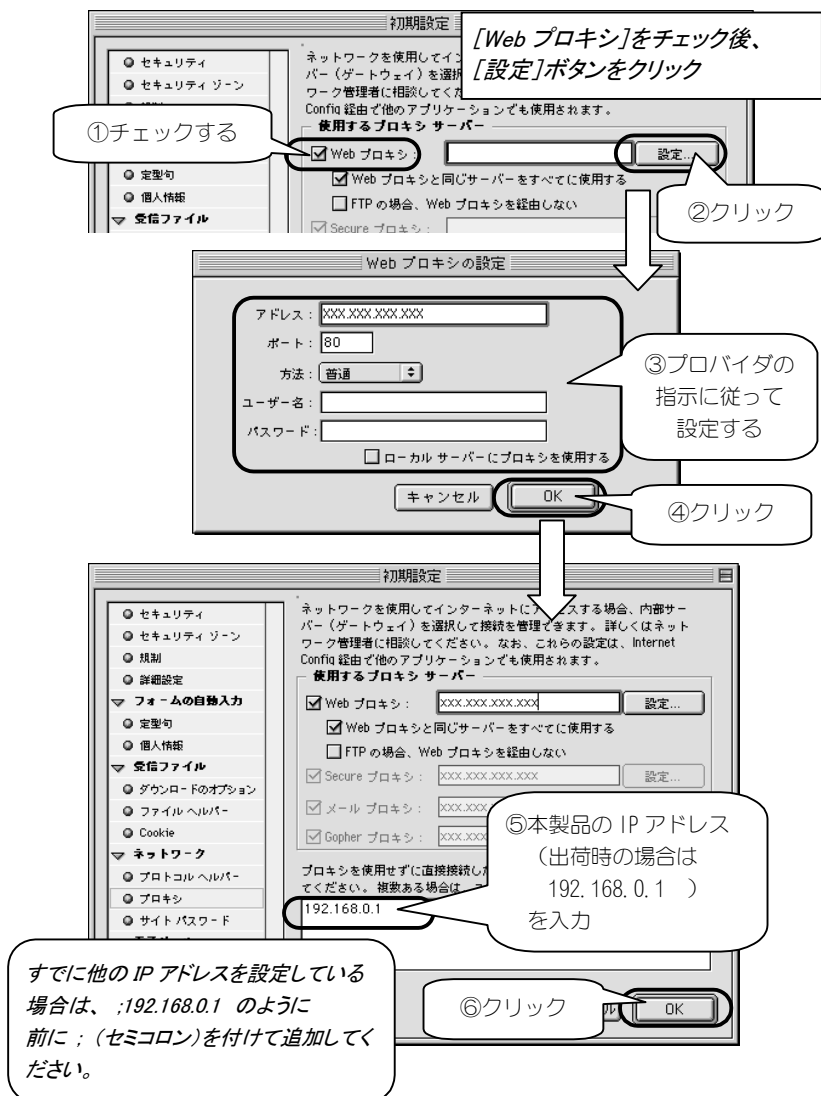
Mac OS（Classic）でのWebブラウザの設定

1 Internet Explorerを起動します。

2 [編集]→[初期設定…]を選択します。

3 [▼ネットワーク]の[プロキシ]を選択します。

4 プロバイダからの資料を参照し、[プロキシ]に関する設定の指示がないか確認し、以下の設定を行います。

●プロバイダから［プロキシ］に関する設定の指示がない場合

●プロバイダから［プロキシ］に関する設定の指示がある場合

設定後、【5. メニュー画面を起動する】（次ページ）へお進みください。

5．メニュー画面を起動する

本製品を設定するためのメニュー画面を起動します。

さらに、事前に確認したIPアドレスの値によって設定が必要になります。

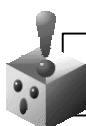
1 Webブラウザを起動して以下を開きます。

「http://192.168.0.1/」

▼Internet Explorerでの例

1)Webブラウザは、【本製品を導入する上で必要なもの】の【設定時に必要なソフトウェア】(18ページ)の項を参照して、必要なバージョンをご確認ください。
なお、本製品にWebブラウザは添付しておりません。
Webブラウザがない、あるいはWebブラウザのバージョンが古い場合は、正常に設定できませんので、必要なバージョン以降をご用意ください。

2)上記IPアドレスは、本製品内部にある設定画面を呼び出すIPアドレスです。
パソコンにLANケーブルで本製品が接続されていれば(インターネットに接続されていなくても)呼び出すことができます。

2 以下の画面が表示されますので、何も入力せずに［ログイン］ボタンをクリックします。

パスワード	空白（何も入力する必要はありません。） ※工場出荷時は未設定です。

I·O DATA WN-B11/BBRH

AirPort

ログインするためにはシステムパスワードを入力し
「ログイン」ボタンをクリックしてください。

システムパスワード：［ログイン］

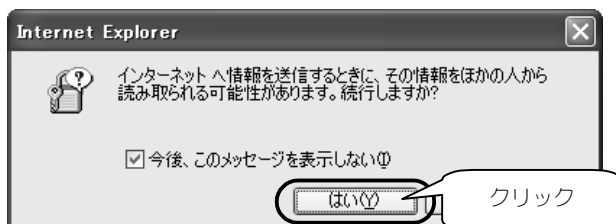
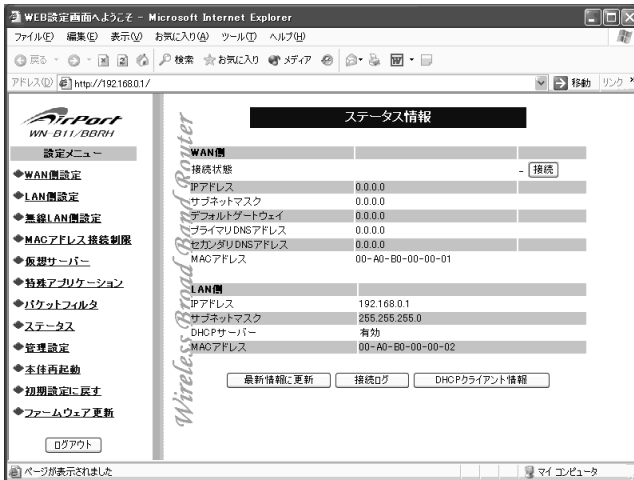
何も入力せずに
［ログイン］ボタンをクリック

上記の画面が
表示されない場合は…

【困ったときには】の
137 ページを
ご参照ください。

参考

パスワードは管理者以外が設定できないようにしたり、誤って設定したりすることを防ぐためのものです。パスワードは出荷時は[空白]ですが、後で変更することをおすすめします。変更方法の詳細は、126 ページを参照してください。

3 以下の画面が表示された場合は、［はい］ボタンをクリックします。

4 設定画面が表示されます。
この画面から各種設定を行います。

5 【1.つなぐ前に確認する】内で記入したIPアドレスをご確認ください。

Windows XP/2000/NT 4.0の場合→27ページ
Windows Me/98/95の場合→29ページ
Mac OSの場合→30ページ

分岐：確認したIPアドレスが…

- **192.168.0.xxx 以外 の場合**（xxxは1～254） 例）172.17.0.1 など
  → **IPアドレスを変更する必要はありません。**
  【インターネットに接続する】（73ページ）へお進みください。

- **192.168.0.xxx の場合**（xxxは1～254） 例）192.168.0.1 など
  → **【IPアドレスを変更する必要がある場合】（次ページ）へお進みください。**

IPアドレスを変更する必要がある場合

確認したIPアドレスが、192.168.0.xxx の場合は、以下の手順で本製品LAN側のIPアドレスを変更してください。

①[LAN側設定]をクリックします。

②IPアドレス欄に **192.168.254.1** と入力します。

③[設定の保存]をクリックします。

④パソコンを再起動します。

⑤【2．IPアドレスを確認する】（42ページ）へ戻り、IPアドレスが以下のように取得されていることを確認します。

IPアドレスの値が、**192.168.254.xxx**（xxxは2～32）になっていることをご確認ください。
⇒IPアドレスが、192.168.0.xxxのままの場合は、次ページの参考をご覧になり、IPアドレスを再取得してみてください。

次ページへつづく

つづき

⑥ プロバイダからプロキシに関する設定の指示がある場合、
【４．Webブラウザを設定する】（58ページ）へ戻り、プロキシ設定で、
192.168.0.1 と設定した個所を、 **192.168.254.1**
へ変更してください。

この後本書内で、**192.168.0.1** と表記されているところは、
192.168.254.1 と読み替えてください。
【インターネットに接続する】（73ページ）へお進みください。

IPアドレスの再取得方法
- **Windows XP/2000/NT 4.0の場合**
  54ページのコマンドプロンプト上で、以下を実行します。
  ①ipconfig –release を実行します。（解放）
  ②ipconfig –renew を実行します。（再取得）
- **Windows Me/98/95の場合**
  56 ページの IP 設定画面で、以下を実行します。
  ①[すべて解放]ボタンをクリックします。
  ②[すべて書き換え]ボタンをクリックします。

インターネットに接続する

本製品を使用して、インターネットに接続します。

接続回線を確認する

インターネットに接続する際の回線を確認します。
接続する回線によって、設定方法が異なります。

☞ 74ページ

ADSL/FTTHで使用する

ADSL/FTTHで使用する場合や、CATVでもPPPoE認証を行う場合の設定です。ただし、PPPoE認証を行わない場合とルータタイプのモデムをご使用の場合は【CATVで使用する】をご覧ください。

☞ 76ページ

CATVで使用する

CATVで使用する場合や、ADSL/FTTHでもPPPoE認証を行わない場合とルータタイプのモデムをご使用の場合の設定です。

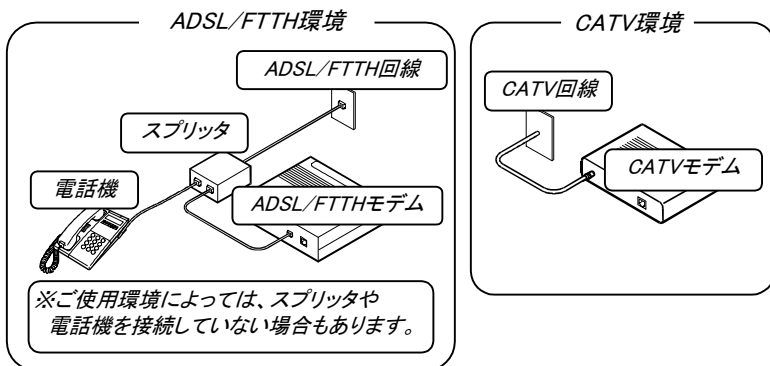
☞ 85ページ

接続回線を確認する

ここでは、接続形態を確認します。
接続する回線により手順が異なりますので、インターネット接続を行うための接続回線を選択し、必要なページのみをご覧ください。

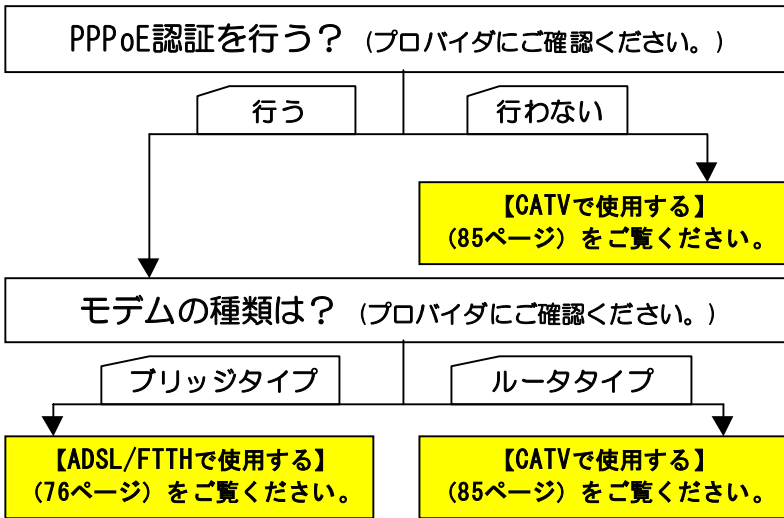
ADSL/FTTH/CATV接続時に必要なもの

本製品をインターネットに接続する際には、以下をご用意ください。

・ADSL/FTTH/CATV環境（既に回線に接続済みの環境）

・本製品	
・専用ACアダプタ	本製品添付品
・LANケーブル	ADSL、ケーブルモデムと本製品との接続用
・LANケーブル	パソコンとの接続用（添付品） （無線の場合は使用しません。）
・LANアダプタ	弊社製「WN-B11/PCMH」など
・設定用パソコン	

接続回線を確認する

●お使いの接続回線は？

以下をご覧になり接続回線が分かったら、それぞれのページを参照し設定を行ってください。

参考

●PPPoE認証について

- **主なPPPoE認証を行うキャリアプロバイダ** … Bフレッツ、フレッツADSL（NTT東日本、西日本）、東京めたりっく通信、名古屋めたりっく通信など
- **主なPPPoE認証を行わないキャリアプロバイダ** … アッカネットワークス、eAccess、KDDI(DIONなど)、Yahoo!BBなど

●モデムの種類について

- **ブリッジタイプ … 同時に接続可能なパソコンの台数は1台です。**
  お使いのパソコンにグローバルIPアドレスを自動的に割り当てます。
  （プロバイダによってはUSBタイプと呼ぶ場合があります。）
- **ルータタイプ … 複数のパソコンを接続することができます。**
  お使いのモデムにグローバルIPアドレスを1つ自動的に割り当てます。
  パソコン側にはモデムのDHCP機能により、プライベートIPアドレスを割り振ることが可能です。

ADSL/FTTHで使用する

ここでは、ADSL/FTTH 接続で使用する場合の設定について説明します。

・ **PPPoE認証を行わないADSLでご利用になる場合**
  接続先がADSL/FTTHであっても、【CATVで使用する】(85ページ)へお進みください。
・ **ルータタイプのADSLモデムでご利用になる場合**
  接続先がADSLであっても【CATVで使用する】(85ページ)へお進みください。

本製品をADSL/FTTHモデムに接続する

本製品をモデムに接続します。

1 モデムの電源が入っていることを確認します。

2 本製品のACアダプタをいったん外します。

3 本製品の［WAN］コネクタにモデムのLANケーブルを接続し、本製品のACアダプタを接続します。

・LAN ケーブルを接続してから AC アダプタを接続してください。
AC アダプタを接続した後に LAN ケーブルを接続すると、本製品を正しく使用できません。
・モデムの電源が入っている状態で接続してください。
電源が入っていないと、本製品を正しく使用できません。
・モデムとの接続は、必ず[WAN]コネクタで接続してください。
他のコネクタに接続すると、本製品を正しく使用できません。

4 接続後しばらくすると、
本製品の［POWER］ランプが緑色に点灯することを確認してください。

メニュー画面を起動する

1 パソコンの電源を入れます。

2 Webブラウザを起動して以下を開きます。
「http://192.168.0.1/」

▼Internet Explorerでの例

【5. メニュー画面を起動する】で本製品 LAN 側の IP アドレスを変更した場合は、「http://192.168.254.1/」と入力してください。

3 以下の画面が表示されます。
何も入力せずに［ログイン］ボタンをクリックします。

パスワード	空白（何も入力する必要はありません。） ※工場出荷時は未設定です。

何も入力せずに
［ログイン］ボタンをクリック

上記の画面が
表示されない場合は…

【困ったときには】の
137 ページを
ご参照ください。

参考

パスワードは管理者以外が設定できないようにしたり、誤って設定したりすることを防ぐためのものです。パスワードは出荷時［空白］ですが、後で変更することをおすすめします。変更方法は、118 ページをご覧ください。

4 以下の画面が表示された場合は、［はい］ボタンをクリックします。

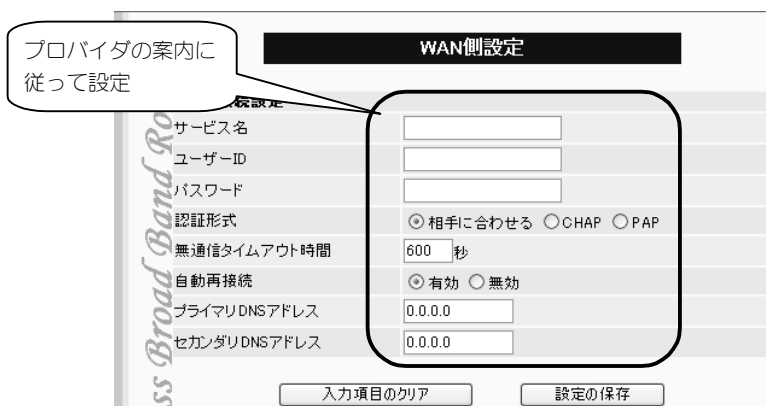
ADSL/FTTH回線に接続する

1 ［設定メニュー］欄の［WAN側設定］をクリックし、［ADSL接続設定］をチェック後、［設定を保存して次へ］をクリックします。

参考

WAN 側とは、ADSL/FTTH および CATV のプロバイダ側のことです。

2 プロバイダから案内されている資料をもとに、以下の設定を行ってください。

特に指定がない個所は空欄（または初期値）のまま変更する必要はありません。

サービス名	PPPoE サービス名が指定されている場合は PPPoE サービス名を入力します。 通常は初期値の空欄のままで問題ありません。
ユーザーID （必須）	プロバイダ指定のユーザー名を入力します。 基本的に、プロバイダの接続マニュアルに記載のユーザー名と同じものを入力してください。 フレッツ ADSL の場合は、＠から後ろもすべて入力してください。
パスワード （必須）	プロバイダ指定の接続パスワードを入力します。
認証方式	プロバイダ指定の認証方式を選択します。 特に指定のない場合は、[相手に合わせる]に設定します。
無通信 タイムアウト 時間	オンデマンド接続時に自動切断を行う時間を設定します。 ブラウザやメーラが全く通信を行っていない場合、この項目で設定した時間を超えると自動的に切断します。 ※[自動再接続]が[有効]に設定されている場合は無視されます。
自動再接続	常時接続の場合は[有効]をチェックします。 オンデマンド接続を行う場合は[無効]をチェックします。
プライマリ DNS アドレス	プロバイダ指定のプライマリ DNS アドレスを入力します。 特に指定のない場合は、設定する必要はありません。
セカンダリ DNS アドレス	プロバイダ指定のセカンダリ DNS アドレスを入力します。 特に指定のない場合は、設定する必要はありません。

[自動再接続]について

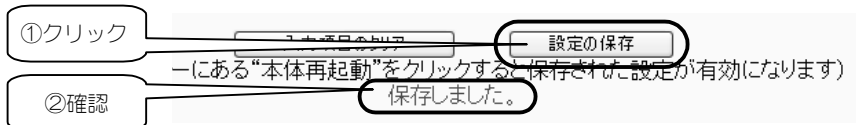
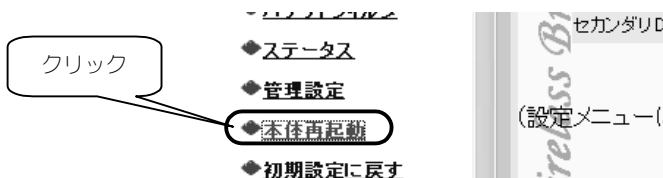
[有効]=常時接続…接続の要求にかかわらず、常に接続された状態になります。

[無効]=オンデマンド接続…･接続の要求に応じて接続を行います。

[認証方式]について

PAP…･最も簡単な認証方式ですが、通信回線をモニタされるとユーザー名とパスワード情報が盗まれる可能性があります。

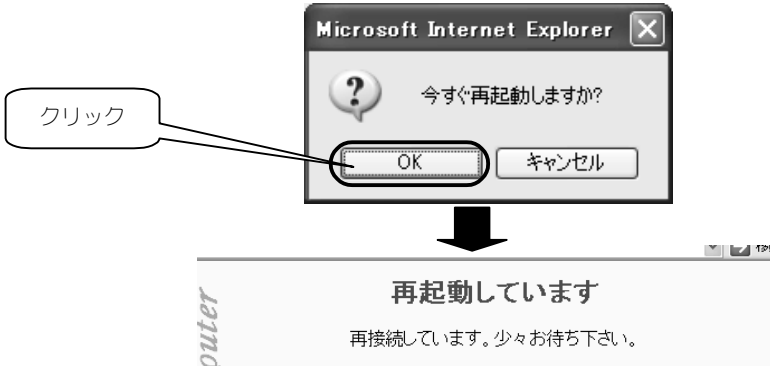
CHAP…PAP と違って、ユーザー名やパスワード情報をそのまま渡さない（流さない）ため、安全性が高い。

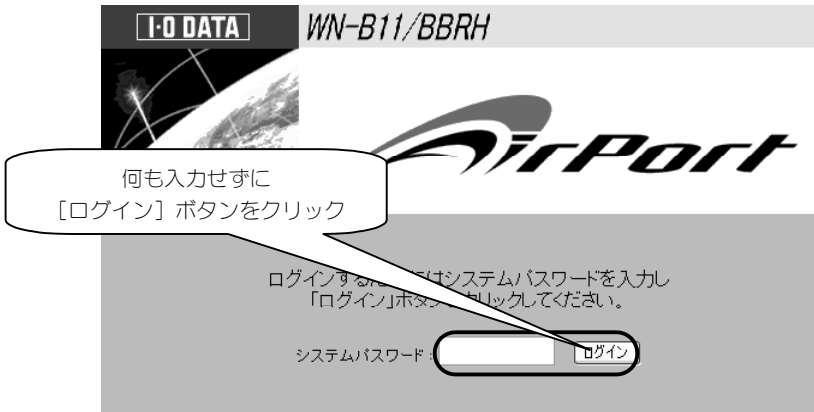
3 設定したら、画面下の［設定の保存］ボタンをクリックします。
しばらくすると、「保存しました」と表示されます。

4 ［設定メニュー］欄の［本体再起動］をクリックします。

注意！

手順**3**での［設定の保存］だけでは本製品に設定が反映されません。
上記の［本体再起動］を行ってはじめて本製品に設定が反映されます。

［本体再起動］では、設定した内容を本製品に反映後、本製品内部で再起動（リスタート）を行う処理です。パソコン側の再起動とは無関係です。

5 以下の画面で［OK］ボタンをクリックします。

設定画面上に「再起動しています」と表示されます。
表示が消えるまでしばらくお待ちください。

6 以下の画面が表示されます。
何も入力せずに［ログイン］ボタンをクリックします。

パスワード	空白（何も入力する必要はありません。） ※工場出荷時は未設定です。

7 再起動が終了すると、以下の画面が表示されます。
［接続状態］に時間が表示されていることを確認してください。

ステータス情報

WAN側		
接続状態	00:00:30	切断
IPアドレス		
サブネットマスク		
デフォルトゲートウェイ		
プライマリDNSアドレス		
セカンダリDNSアドレス		
MACアドレス	00-A0-B0-	

LAN側	
IPアドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
DHCPサーバー	有効
MACアドレス	00-A0-B0-

●［接続状態］に時間が表示されている場合

ADSL接続が完了し、インターネットに接続できる状態です。

●［接続状態］が「ー」表示のままの場合

プロバイダとの接続が切れている、もしくは正常に接続できていない状態です。設定が正しくできていない可能性があります。再度［ユーザー名］や［パスワード］を確認してください。

以上でインターネットに接続できます。

本製品をDHCPサーバーとしてご利用になっている場合は、必ず本製品の電源を入れた後で、パソコンの電源を入れてください。

CATVで使用する

本製品をCATVモデムに接続する

本製品をモデムに接続します。

1 モデムの電源が入っていることを確認します。

2 本製品のACアダプタをいったん外します。

3 本製品の［WAN］コネクタにモデムのLANケーブルを接続し、本製品のACアダプタを接続します。

・LAN ケーブルを接続してから AC アダプタを接続してください。
AC アダプタを接続した後に LAN ケーブルを接続すると、本製品を正しく使用できません。
・モデムの電源が入っている状態で接続してください。
電源が入っていないと、本製品を正しく使用できません。
・モデムとの接続は、必ず[WAN]コネクタで接続してください。
他のコネクタに接続すると、本製品を正しく使用できません。

4 接続後しばらくすると、本製品の［POWER］ランプが緑色に点灯することを確認してください。

メニュー画面を起動する

1 パソコンの電源を入れます。

2 Webブラウザを起動して以下を開きます。
「http://192.168.0.1/」

▼Internet Explorerでの例

【5. メニュー画面を起動する】で本製品LAN側のIPアドレスを変更した場合は、「http://192.168.254.1/」と入力してください。

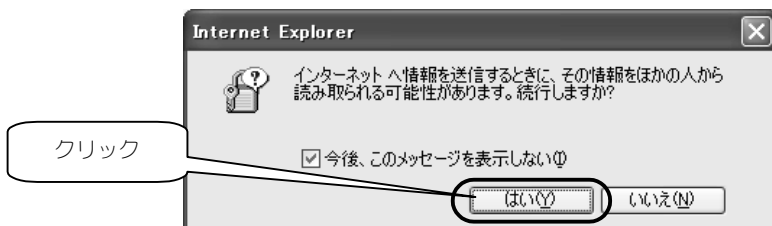
3 以下の画面が表示されます。
何も入力せずに［ログイン］ボタンをクリックします。

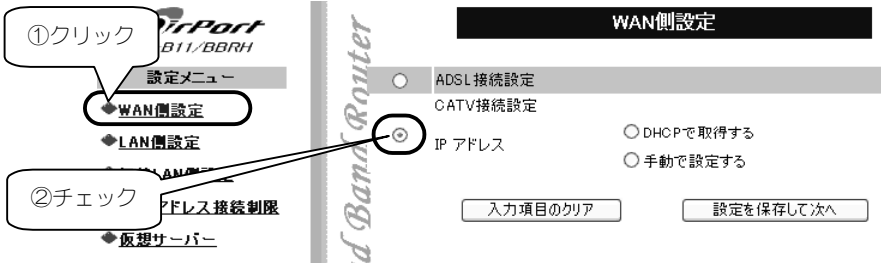
パスワード	空白（何も入力する必要はありません。） ※工場出荷時は未設定です。

上記の画面が
表示されない場合は…

【困ったときには】の
137 ページを
ご参照ください。

パスワードは管理者以外が設定できないようにしたり、誤って設定したりすることを防ぐためのものです。パスワードは出荷時は[空白]ですが、後で変更することをおすすめします。変更方法は、118 ページをご覧ください。

4 以下の画面が表示された場合は、［はい］ボタンをクリックします。

CATV回線に接続する

1 ［設定メニュー］欄の［WAN側設定］をクリック後、［CATV接続設定］をチェックします。

参考

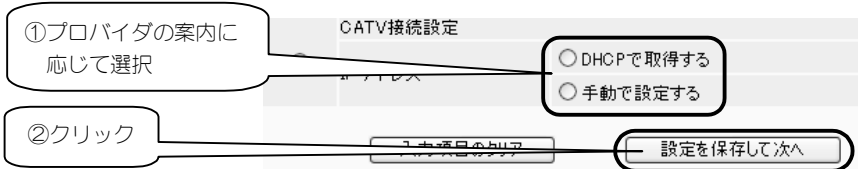
WAN 側とは、ADSL および CATV のプロバイダ側のことです。

2 プロバイダの案内に応じて以下を行います。

・*プロバイダから指示されたインターネット用（WAN側）のIPアドレスが自動取得の場合*

→ ［DHCPで取得する］をチェック後、［設定を保存して次へ］ボタンをクリックします。

・*プロバイダから指示されたインターネット用（WAN側）のIPアドレスが固定の場合*

→ ［手動で設定する］をチェック後、［設定を保存して次へ］ボタンをクリックします。

・IPアドレスが自動取得の場合

DHCPで取得する
手動で設定する

プロバイダから案内されている資料をもとに、以下の設定を行ってください。
特に指定のない個所は空欄（または初期値）のまま変更する必要はありません。

ホスト名	プロバイダ指定のホスト名を必要に応じて入力します。
自動再接続	常時接続の場合は[有効]をチェックします。 オンデマンド接続を行う場合は[無効]をチェックします。
プライマリ DNS アドレス	プロバイダ指定のプライマリ DNS アドレスを入力します。 特に指定のない場合は、設定する必要はありません。
セカンダリ DNS アドレス	プロバイダ指定のセカンダリ DNS アドレスを入力します。 特に指定のない場合は、設定する必要はありません。

[自動再接続]について

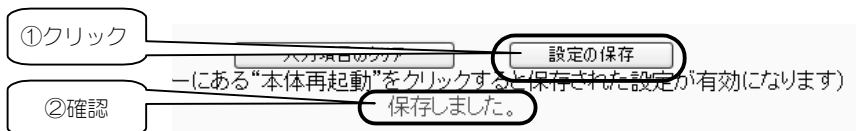
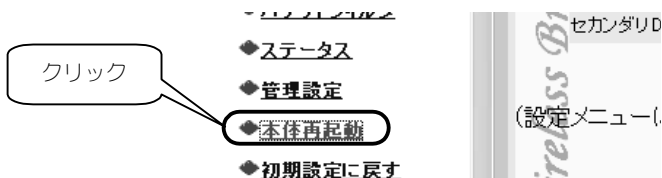
[有効]=常時接続…接続の要求にかかわらず、常に接続された状態になります。
[無効]=オンデマンド接続…・接続の要求に応じて接続を行います。
CATV の場合は、常時接続になりますので、[自動再接続]は[有効]に設定してください。

・IPアドレスが固定の場合

〇 DHCPで取得する
◉ 手動で設定する

プロバイダから案内されている資料をもとに、以下の設定を行ってください。
特に指定のない個所は空欄(または初期値)のまま変更する必要はありません。

IP アドレス	プロバイダ指定のインターネット用(WAN 側)IP アドレスを入力します。*(必須)*
サブネットマスク	プロバイダ指定のサブネットマスクを入力します。
デフォルトゲートウェイ	プロバイダ指定のデフォルトゲートウェイを入力します。
プライマリ DNS アドレス	プロバイダ指定のプライマリ DNS アドレスを入力します。 特に指定のない場合は、設定する必要はありません。
セカンダリ DNS アドレス	プロバイダ指定のセカンダリ DNS アドレスを入力します。 特に指定のない場合は、設定する必要はありません。

3 設定したら、画面下の［設定の保存］ボタンをクリックします。
しばらくすると、「保存しました」と表示されます。

4 ［設定メニュー］欄の［本体再起動］をクリックします。

上記*3*の手順での［設定の保存］だけでは本製品に設定が反映されません。
上記*4*の［本体再起動］を行ってはじめて本製品に設定が反映されます。

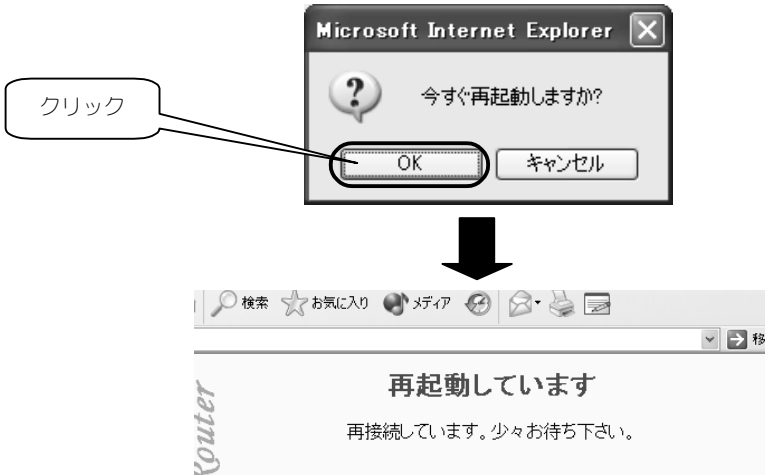
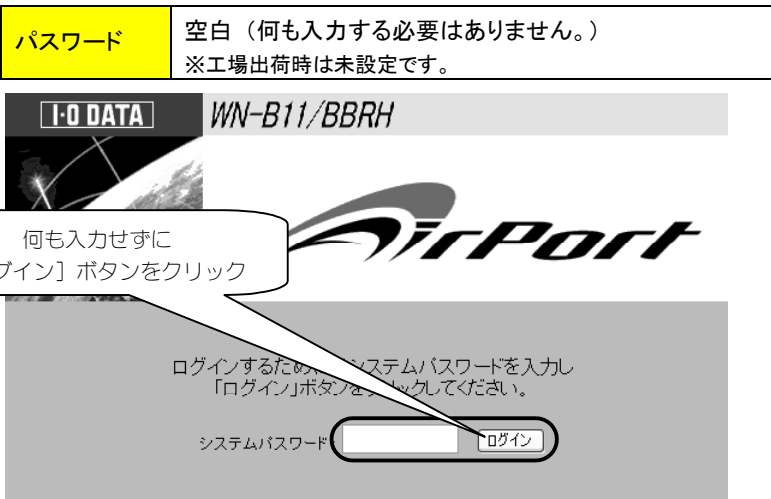
参考

［本体再起動］では、設定した内容を本製品に反映後、本製品内部で再起動（リスタート）を行う処理です。パソコン側の再起動とは無関係です。

5 以下の画面で［OK］ボタンをクリックします。

設定画面上に「再起動しています」と表示されます。
表示が消えるまでしばらくお待ちください。

6 以下の画面が表示されます。何も入力せずに［ログイン］ボタンをクリックします。

パスワード	空白（何も入力する必要はありません。） ※工場出荷時は未設定です。

7 再起動が終了すると、以下の画面が表示されます。

［WAN側］の［リース残り時間］（または［IPアドレス］）がプロバイダから取得されている（「0」以外の表示となっている）ことを確認してください。

･IPアドレスが自動取得の場合の画面

確認

ステータス情報

WAN側		
リース残り時間	00:29:30	書換
IPアドレス	[illegible]	
サブネットマスク	[illegible]	
デフォルトゲートウェイ	[illegible]	
プライマリDNSアドレス	[illegible]	
セカンダリDNSアドレス	[illegible]	
MACアドレス	00-A0-B0-[illegible]	

LAN側	
IPアドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
DHCPサーバー	有効
MACアドレス	00-A0-B0-[illegible]

●［WAN側］の｛リース残り時間｝が取得されている場合

CATV接続が完了し、インターネットに接続できる状態です。

●［WAN側］の｛リース残り時間｝を取得できていない（「00:00:00」のままとなっている）場合

プロバイダとの接続が切れている、もしくは正常に接続できていない状態です。設定が正しくできていない可能性があります。再度［LAN側接続設定］を確認してください。

・IPアドレスが固定の場合の画面

確認

ステータス情報

WAN側	
IPアドレス	[illegible]
サブネットマスク	[illegible]
デフォルトゲートウェイ	[illegible]
プライマリDNSアドレス	[illegible]
セカンダリDNSアドレス	[illegible]
MACアドレス	00-A0-B0-[illegible]

LAN側	
IPアドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
DHCPサーバー	有効
MACアドレス	00-A0-B0-[illegible]

●[WAN側]の{IPアドレス}が正しく表示されている場合

CATV接続が完了し、インターネットに接続できる状態です。

●[WAN側]の{IPアドレス}が正しく表示されていない（「0.0.0.0」のままとなっている）場合

プロバイダとの接続が切れている、もしくは正常に接続できていない状態です。設定が正しくできていない可能性があります。再度［LAN側接続設定］を確認してください。

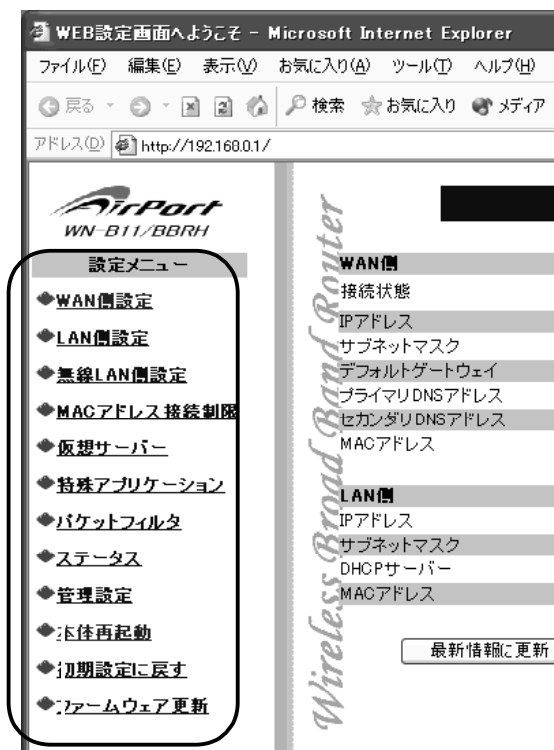
【困ったときには】の
146 ページを
ご参照ください。

以上でインターネットに接続されます。

注意！

本製品を DHCP サーバーとしてご利用になっている場合は、必ず本製品の電源を入れた後で、パソコンの電源を入れてください。

その他の設定

ここでは、ADSL/FTTHおよびCATV接続以外のその他の設定について説明します。

LAN側設定
（本製品のIPアドレスやDHCPサーバー機能を設定する）

ここでは、[設定メニュー]の[LAN側設定]について説明します。

◆LAN側設定

LAN側設定

IPアドレス	192.168.0.1
DHCP サーバー	○無効 ◉有効 開始IPアドレス 2 終了IPアドレス 32
プライマリWINSアドレス	0.0.0.0
セカンダリWINSアドレス	0.0.0.0
IPアドレスを固定するMACアドレス	設定...

IP アドレス	本製品の IP アドレスを入力します。 初期値：192.168.0.1
DHCP サーバー	本製品の DHCP サーバー機能の有効・無効を設定します。初期設定では、192.168.0.2～192.168.32 の 31 台までを割り当てる設定となっています。（最大 2～254 まで） ・[開始 IP アドレス]は、クライアントに割り当てる最初の IP アドレス ・[終了 IP アドレス]はクライアントに割り当てる最後の IP アドレス
プライマリ WINS アドレス	WINS サーバーを併用して運用されている場合は、ここにプライマリ WINS サーバーアドレスを入力します。
セカンダリ WINS アドレス	WINS サーバーを併用して運用されている場合は、ここにセカンダリ WINS サーバーアドレスを入力します。
IP アドレスを固定する MAC アドレス	設定した MAC アドレスのネットワーク機器にいつも決まった IP アドレスを割り当てます。[設定]をクリックすると、MAC アドレス接続制限（105 ページ）の画面になります。

無線LAN側設定
（本製品の無線LANを設定する）

ここでは、[設定メニュー]の[無線LAN側設定]について説明します。

◆無線LAN側設定

無線LAN側設定

SSID default
チャンネル 6
WEP ◉無効 ○64bit共有キー ○128bit共有キー
キー1
キー2
キー3
キー4

SSID	SS IDを設定します。半角英数字で32文字まで入力できます。（大文字、小文字の区別もあります。） 複数のアクセスポイントがあり、自動的に電波の強いアクセスポイントへ接続を切り替えるローミング機能を使用する場合は、すべてのアクセスポイントのSS IDを統一します。 グループ毎にアクセスポイントを分ける場合などは、アクセスポイント毎に別のSS IDを設定してください。設定後、本製品と通信する無線LAN製品は、すべてその値を設定してください。
チャンネル	通信チャンネル（使用する電波の周波数帯域を分割して、それぞれの帯域に番号を割り当てたもの）の設定を行います。 本製品以外にアクセスポイントやアクセスポイント内蔵機器がない場合は、初期値のまま変更する必要はありません。 本製品以外にアクセスポイントやアクセスポイント内蔵機器がある場合にのみ、それぞれのネットワークで別々の通信チャネルの値を設定してください。（電波の干渉を防ぐため5チャンネル間隔を空けることをおすすめします。） 初期値：6　　　設定値：1～14

WEP	送受信する無線データの暗号化の設定です。 64bitより128bitの方がより高いセキュリティレベルを確保できますが速度は低下します。 *[無効]*　（初期値） 　送受信するデータの暗号化を行いません。 *[64bit共有キー]* 　送受信するデータを64bitで暗号化します。 *[128bit共有キー]* 　送受信するデータを128bitで暗号化します。
キー1 キー2 キー3 キー4	直接暗号キーを10桁の16進数(0～9、A～F)で入力します。 ([128 bit]の場合は26桁入力します。) 無線LANアダプタなど通信相手側と同じ暗号キーを入力する必要があります。 暗号化の設定方法は次ページ以降を参照してください。

注意！

・無線 LAN アダプタから設定を行った場合、本製品の無線設定を変更すると、無線 LAN アダプタ側の設定を変更後の値に合わせるまで通信が途切れてしまいます。有線 LAN アダプタがある場合には、有線 LAN 接続したパソコンから設定することをおすすめします。
・初期設定では無線 LAN 製品（弊社製「WN-B11/PCM」や「WN-B11/USB」等）側の[SS ID]の設定を[ANY]とした場合、本製品で設定した SS ID の値にかかわらず、無線でアクセスできるようになります。不正アクセスを防ぐためにも、通信の暗号化や通信できる。パソコンを制限することをおすすめします。
・本製品にアクセスする無線 LAN 製品は、すべて同じ SS ID にする必要があります。
・SS ID は半角英数字で 32 文字まで入力できます。（大文字、小文字の区別もあります。）
・SS ID は、ご購入時[default]に設定されていますが、セキュリティのため、変更することをおすすめします。
・SS ID およびチャンネルの値が他の無線 LAN グループと重なると、他の無線 LAN グループに通信の内容が流れる、あるいは他の無線 LAN グループの通信が来てしまいます。そのために起こったトラブルに対しては弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

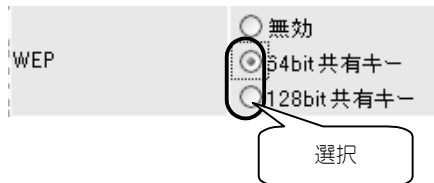
暗号化の設定

ここでは暗号化の設定例について説明します。

注意！

本製品を無線 LAN 接続パソコンで設定している場合は、暗号キーを変更後、以前の無線 LAN 設定と異なるため、通信できなくなります。
その場合、無線 LAN 接続設定用パソコン側で再度暗号キー設定を、変更した内容に合わせれば再度無線 LAN で接続できます。ただし、変更した内容を忘れた場合など、無線 LAN で本製品に接続できなくなった場合は、有線 LAN から接続しなおすか、本製品を出荷時状態に戻す必要がありますので、設定する暗号キーはメモにとることをおすすめします。

1 ［WEP］欄から暗号キーの種類（［64bit共有キー］［128bit共有キー］）をチェックします。

すでに無線LANの暗号キーをお使いで、そのキーに合わせる場合は、そのキーの種類をチェックしてください。
はじめて暗号キーを設定する場合などは、以下の【参考】を参照してチェックしてください。

［64bit 共有キー］より［128bit 共有キー］の方がより高いセキュリティレベルを確保できますが速度は低下します。
また、ご使用の無線 LAN 製品によっては、［128bit 共有キー］に対応していない製品（弊社製 WN-B11/USB など）があります。

2 ［キー１］欄に暗号キーを入力します。

・[64bit共有キー]の場合

10桁の16進数のキーを入力します。

・[128bit共有キー]の場合

26桁の16進数のキーを入力します。

すでに無線LANの暗号キーをお使いで、そのキーに合わせる場合は、そのキーを入力してください。
はじめて暗号キーを設定する場合などは、キーを入力後、キーの種類とキー自体をメモにとってください。その内容を他の無線LANアダプタ側に設定するためです。

[64bit 共有キー]の場合:
10 桁の 16 進数　例)0123456789
[128bit 共有キー]の場合:
26 桁の 16 進数　例)01234567890123456789012345

3 **設定後、画面下の［設定の保存］ボタンで設定を保存します。**

4 **［設定メニュー］の［本体再起動］で設定が有効になります。**

書き取った 16 進数の暗号キーは、無線 LAN アダプタで暗号化を行う際に使用します。本製品ではパスフレーズによる暗号化はできませんので、必ず無線 LAN アダプタ側では、[16 進]による暗号化キーを使用してください。

参考： 暗号キー入力方式の異なる他社製品との暗号化について

本製品を含む WN-B11 シリーズでは暗号キーとして 16 進コードでの暗号キー入力方式を採用していますが、他社製品には、[64bit 共有キー]の場合は5文字、[128bit 共有キー]の場合は 13 文字の英数字・記号で暗号キーを指定する方式や、文字列から 16 進コードへ変換する際、本製品と変換方式の異なる製品があります。

これらの製品と暗号化を行う場合は、最初に英数字・記号の[64bit 共有キー]の場合は5文字、[128bit 共有キー]の場合は 13 文字で暗号キーに使用する文字列を決め、16 進コードを入力できない他社製品はこの5文字の文字列を入力します。

WN-B11 シリーズや 16 進コードを入力可能な他社製品にはこの5文字の文字列を下記対応表に基づき、16 進コードに変換したうえで入力することで通信可能となります。

各文字と 16 進コードの対応については下記の表を参照してください。

＜例＞　[64bit 共有キー] での文字で "PLANT" と設定している場合、
　　16 進コードでは [50 4c 41 4e 54] となります。

文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進
!	21	/	2f	=	3d	K	4b	Y	59	g	67	u	75
"	22	0	30	>	3e	L	4c	Z	5a	h	68	v	76
#	23	1	31	?	3f	M	4d	[	5b	I	69	w	77
$	24	2	32	@	40	N	4e	¥	5c	j	6a	x	78
%	25	3	33	A	41	O	4f	]	5d	k	6b	y	79
&	26	4	34	B	42	P	50	^	5e	l	6c	z	7a
'	27	5	35	C	43	Q	51	_	5f	m	6d	{	7b
(	28	6	36	D	44	R	52	`	60	n	6e	|	7c
)	29	7	37	E	45	S	53	a	61	o	6f	}	7d
*	2a	8	38	F	46	T	54	b	62	p	70	~	7e
+	2b	9	39	G	47	U	55	c	63	q	71		
,	2c	:	3a	H	48	V	56	d	64	r	72		
-	2d	;	3b	I	49	W	57	e	65	s	73		
.	2e	<	3c	J	4a	X	58	f	66	t	74		

無線 LAN アダプタ側での暗合化設定

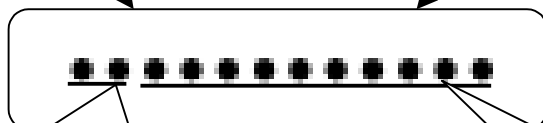
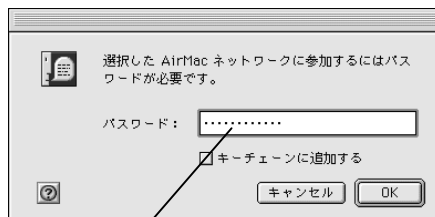
無線 LAN アダプタ側での暗号化の設定は、各無線 LAN アダプタによって異なります。それぞれの取扱説明書をご覧ください。

AirMac での設定方法は特殊なので、以下の方法を参考にしてください。

・AirMac での設定方法

暗号化設定済みの本製品に接続する場合は、[AirMac ネットワークの選択] にてパスワードが要求されます。

パスワードを入力する際には下記のようにしてください。

▼Mac OS X　　▼Mac OS（Classic）

MACアドレス接続制限
(接続できるパソコンを限定する)

ここでは、[設定メニュー]の[MACアドレス接続制限]について説明します。

◆MACアドレス接続制限

この機能は、有線および無線LANアダプタのMACアドレス毎に、本製品への接続の許可・禁止をすることによって、特定のパソコンのみしか本製品やインターネットに接続できなくすることができます。次ページの設定例をご覧ください。

MACアドレス接続制限

MACアドレス接続制限	□有効
□LAN接続制限	「接続」の項目にチェックを入れると、本装置にLAN接続できます。 未指定のMACアドレスからのLAN接続を 許可 します。
□無線LAN接続制限	「無線」の項目にチェックを入れると、無線LANで接続することができます。 未指定のMACアドレスからの無線LAN接続を 拒否 します。

接続	無線	項目	MACアドレス	IPアドレス
□	□	1		192.168.0.
□	□	2		192.168.0.
□	□	3		192.168.0.
□	□	4		192.168.0.

LAN 接続制限	チェックした場合、有線および無線 LAN で接続しているパソコン(LAN アダプタ)の接続制限を行います。
無線 LAN 接続制限	チェックした場合、無線 LAN で接続しているパソコン(無線 LAN アダプタ)の接続制限を行います。
接続	有線 LAN および無線 LAN で接続しているパソコンの接続を許可する場合にチェックします。 接続を禁止する場合はチェックを外します。
無線	無線 LAN で接続しているパソコンの接続を許可する場合にチェックします。 接続を禁止する場合はチェックを外します。
MAC アドレス	接続を制限するパソコン(LAN アダプタ)の MAC アドレスを入力します。以下の例のように“-”も入力してください。 例) xx-xx-xx-xx-xx-xx
IP アドレス	接続を制限するパソコンの IP アドレスを入力します。 IP アドレスを指定しない場合は空欄にしてください。

・設定例

1. [MACアドレス接続制限]の[有効]にチェックを付けます。

2. 有線LAN接続のパソコンを制限する場合は、[LAN接続制限]にチェックを付け、そのパソコンを[許可]するか[拒否]するかを選びます。

3. 無線LAN接続のパソコンを制限する場合は、[無線LAN接続制限]にチェックを付け、そのパソコンを[許可]するか[拒否]するかを選びます。

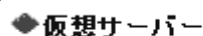
4. 有線LAN接続のパソコンを制限します。
   [接続]にチェックを付け、対象のMACアドレスを入力します。
   必要に応じて、IPアドレスも設定します。

5. 無線LAN接続のパソコンを制限します。
   [接続]と[無線]にチェックを付け、対象のMACアドレスを入力します。
   必要に応じて、IPアドレスも設定します。

6. すべての設定が終了したら、[設定の保存]ボタンをクリックします。

7. [本体再起動]を実行して、設定は完了です。

仮想サーバー
（Webサーバーなどをインターネット上で公開する）

ここでは、[設定メニュー]の[仮想サーバー]について説明します。

◆仮想サーバー

[仮想サーバー]設定では、Web サーバー・FTPサーバー・e-mail サーバーなどを自設する場合に、該当のサービスポートとプライベートIPアドレスを設定して、使用することができます。[サーバーIPアドレス]は固定で使用してください。（DHCPで割り当てる範囲外のIPアドレスとしてください。）

仮想サーバー

有効	番号	サービスポート番号	サーバーIPアドレス	
□	1		192.168.0.	コピー
□	2		192.168.0.	コピー
□	3		192.168.0.	コピー
□	4		192.168.0.	コピー
□	5		192.168.0.	コピー
□	6		192.168.0.	コピー
□	7		192.168.0.	コピー
□	8		192.168.0.	コピー
□	9		192.168.0.	コピー
□	10		192.168.0.	コピー

項目	説明
有効	チェックを入れると設定した内容が有効になります。
ID	設定の見出し番号です。
サービスポート番号	WebやFTPなど、どのサービスに対してポートを開けるかをポート番号で指定します。 範囲指定ができます。（範囲を指定する場合は“–”を使います。） 例） 120-150
サーバIPアドレス	Web サーバや FTP サーバなど、公開するサーバのIP アドレスを指定します。
コピー	よく使用するポート番号をリストから選び、コピーできます。 ①コピーをクリックします。 ②プルダウンメニューからポート番号を選び[コピー]をクリックします。 ③[終了]をクリックします。 →各値がコピーされます。

特殊アプリケーション
（特殊なアプリケーションのポートを設定する）

ここでは、［設定メニュー］の［特殊アプリケーション］について説明します。

◆特殊アプリケーション

特殊アプリケーション設定は、複数のポートを有効にすることを設定できます。
特定のアプリケーションで、NATなどのファイヤウォール下で通信機能が動作できない場合に利用します。詳細設定内容については、各アプリケーションの取扱説明書を参照してください。

特殊アプリケーション

有効	番号	トリガ	インカミングポート番号	
□	1			コピー
□	2			コピー
□	3			コピー
□	4			コピー

項目	説明
有効	チェックを入れると設定した内容が有効になります。
番号	設定の見出し番号です。
トリガ	ここで指定したポートへアプリケーションからの要求があるとアプリケーションに必要な全てのポートが開かれます。
インカミングポート番号	アプリケーションが使用するポートの番号を入力します 複数および範囲指定ができます。（連続していない複数のポートは“，”（カンマ）で区切り、範囲を指定する場合は“–”を使います。） 例） 25,80,120-150
コピー	よく使用するポート番号をリストから選び、コピーできます。 ①コピーをクリックします。 ②プルダウンメニューからポート番号を選び［コピー］をクリックします。 ③［終了］をクリックします。 →各値がコピーされます。

注意！

特殊アプリケーションを有効にすると、同時に2台以上のインターネット接続ができなくなります。

パケットフィルタ
（使用できるアプリケーションを限定する）

ここでは、［設定メニュー］の［パケットフィルタ］について説明します。

◆パケットフィルタ

LAN に外部からの接続を許す際には、セキュリティに充分配慮する必要があります。***パケットフィルタ機能*** を使った簡易ファイヤウォールにて、以下のことができます。

・LANから外部に出て行くパケットを制限する（次ページ参照）

・外部からLANに入るパケットを制限する（112ページ参照）

本製品でこの機能が有効になっていると、IP パケットを単にルーティングするだけでなく、パケットのヘッダ情報を調べて、送信元や送信先の IP アドレス、プロトコルの種類（TCP/UDP）、ポート番号などに基づいて、パケットを通過させたり破棄したりすることができます。
このようなパケットフィルタ機能は、コンピュータやアプリケーション側の設定を変更する必要がないために、ユーザがパケットフィルタの存在を意識することなく、簡単に利用できます。

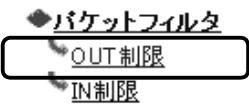
・パケットフィルタ設定時のポイント・注意

・一般的には、すべてのパケットの通過を禁止しておき、ユーザに提供したいサービス（アプリケーション）のパケットだけが通過できるように、フィルタリングを設定します。

・本製品は IP パケットのみをフィルタリング制御の対象とします。
その他のレイヤー3 プロトコルは、すべて遮断します。

・工場出荷の状態では、フィルタは設定されていません。ユーザは OUT/IN それぞれ8個までのフィルタを設定することができます。

LANから外部に出て行くパケットを制限する

ここでは、[設定メニュー]の[パケットフィルタ]の下の[OUT制限]でLANから外部に出て行くパケットを制限することができます。

パケットフィルタOUT制限

パケットフィルタOUT制限	○有効 ◉無効
パケットの通過	○通過させる(pass) ◉破棄する(reject)

有効	ID	送信元IPアドレス	ポート番号	受信先IPアドレス	ポート番号
□	1				
□	2				
□	3				
□	4				
□	5				
□	6				
□	7				
□	8				

パケットフィルタOUT制限	パケットOUT方向(LAN→WAN[インターネット]方向)のフィルタ制限を行うか否かを選択します。
パケットの通過	フィルタの条件に合致したとき、そのパケットを通過させるか破棄するかを選択します。 *・通過させる* 条件に合ったパケットのみを通過させ、残りはすべて破棄します。 *・破棄する* 条件に合ったパケットのみを破棄し、残りはすべて通過させます。

有効	チェックを入れると設定した内容が有効になります。
ID	設定の見出し番号です。
送信元IPアドレス	フィルタリングの条件として、パケットの送信元のIPアドレスを設定します。入力方法は以下のとおりです。 *単一のアドレスを指定する場合:* 送信元IP アドレス *アドレスの範囲を指定する場合:* 送信元アドレス始点－送信元アドレス終点(ハイフンで結ぶ) すべての送信元を対象とする場合は、空欄にします。
ポート番号	フィルタリング対象とする送信元のポートを選択します。 ポート番号を直接指定してください。範囲での指定も可能です。（範囲を指定する場合は“–”を使います。） 例） 25,80,120−150 また、ポート番号の前に“T”を入力するとTCPのみ、“U”を入力するとUDPのみが対象となります。
受信先IPアドレス	フィルタリングの条件として、パケットの受信先(あて先)IPアドレスを設定します。入力方法は以下のとおりです。 *単一のアドレスを指定する場合:* 送信元IPアドレス *アドレスの範囲を指定する場合:* 送信元アドレス始点－送信元アドレス終点(ハイフンで結ぶ) すべての送信元を対象とする場合は空欄にします。
ポート番号	フィルタリング対象とする受信元のポートを選択します。 ポート番号を直接指定してください。範囲での指定も可能です。（範囲を指定する場合は“–”を使います。） 例） 25,80,120−150 また、ポート番号の前に“T”を入力するとTCPのみ、“U”を入力するとUDPのみが対象となります。

外部からLANに入るパケットを制限する

ここでは、[設定メニュー]の[パケットフィルタ]の下の[IN制限]で外部からLANに入るパケットを制限することができます。

パケットフィルタIN制限

パケットフィルタIN制限　○有効　◉無効

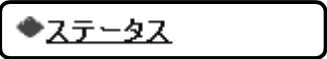
パケットの通過　○通過させる(pass)　◉破棄する(reject)

有効	ID	送信元IPアドレス	ポート番号	受信先IPアドレス	ポート番号
☐	1				
☐	2				
☐	3				
☐	4				
☐	5				
☐	6				
☐	7				
☐	8				

パケットフィルタIN制限	パケットIN方向(WAN[インターネット]→LAN方向)のフィルタ制限を行うか否かを選択します。
パケットの通過	フィルタの条件に合致したとき、そのパケットを通過させるか破棄するかを選択します。 *・通過させる* 条件に合ったパケットのみを通過させ、残りはすべて破棄します。 *・破棄する* 条件に合ったパケットのみを破棄し、残りはすべて通過させます。

有効	チェックを入れると設定した内容が有効になります。
ID	設定の見出し番号です。
送信元IPアドレス	フィルタリングの条件として、パケットの送信元のIPアドレスを設定します。入力方法は以下のとおりです。 *単一のアドレスを指定する場合：* 送信元IP アドレス *アドレスの範囲を指定する場合：* 送信元アドレス始点－送信元アドレス終点(ハイフンで結ぶ) すべての送信元を対象とする場合は、空欄にします。
ポート番号	フィルタリング対象とする送信元のポートを選択します。 ポート番号を直接指定してください。範囲での指定も可能です。（範囲を指定する場合は －（ハイフン）を使います。） 例） 25,80,120-150 また、ポート番号の前に“T”を入力するとTCPのみ、“U”を入力するとUDPのみが対象となります。
受信先IPアドレス	フィルタリングの条件として、パケットの受信先(あて先)IPアドレスを設定します。入力方法は以下のとおりです。 *単一のアドレスを指定する場合：* 送信元IPアドレス *アドレスの範囲を指定する場合：* 送信元アドレス始点－送信元アドレス終点(ハイフンで結ぶ) すべての送信元を対象とする場合は空欄にします。
ポート番号	フィルタリング対象とする受信元のポートを選択します。 ポート番号を直接指定してください。範囲での指定も可能です。（範囲を指定する場合は －（ハイフン）を使います。） 例） 25,80,120-150 また、ポート番号の前に“T”を入力するとTCPのみ、“U”を入力するとUDPのみが対象となります。

ステータス
（現在の接続・設定状態を確認する）

ここでは、[設定メニュー]の[ステータス]について説明します。

◆ステータス

[ステータス]では、接続/切断状況や本製品の設定内容を表示することができます。

ステータス情報

WAN側

接続状態	-	接続
IPアドレス	0.0.0.0	
サブネットマスク	0.0.0.0	
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0	
プライマリDNSアドレス	0.0.0.0	
セカンダリDNSアドレス	0.0.0.0	
MACアドレス	00-A0-B0-XX-XX-XX	

LAN側

IPアドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
DHCPサーバー	有効
MACアドレス	00-A0-B0-XX-XX-XX

最新情報に更新　接続ログ　DHCPクライアント情報

Wireless Broad Band Router

・*WAN側*

接続状態	現在の接続状態が表示されます。
リース残り時間 *（CATV接続設定で[IPアドレスをDHCPで取得する]時のみ）*	DHCP サーバーから取得した IP アドレスのリース残り時間を表示します。
[接続]ボタン [切断]ボタン	ADSL(PPPoE)の場合は、[接続][切断]のボタンをクリックすることにより、手動で接続/切断作業が行えます。（オンデマンド接続）
[書換]ボタン *（CATV接続設定で[IPアドレスをDHCPで取得する]時のみ）*	CATV（DHCP で取得）の場合は、[書換]ボタンをクリックすることにより、手動で DHCP サーバーより IP アドレスの書き換えを行います。

IP アドレス	現在、WAN側にてプロバイダから取得または手動設定されているIPアドレスを表示します。
サブネットマスク	現在、WAN側にてプロバイダから取得または手動設定されているサブネットマスクを表示します。
デフォルトゲートウェイ	現在、WAN側にてプロバイダから取得または手動設定されているデフォルトゲートウェイを表示します。
プライマリDNSアドレス	現在、WAN側にてプロバイダから取得または手動設定されているプライマリDNSアドレスを表示します。
セカンダリDNSアドレス	現在、WAN側にてプロバイダから取得または手動設定されているセカンダリDNSアドレスを表示します。
MACアドレス	本製品のWAN側のMACアドレスを表示します。

・LAN側

IPアドレス	本製品に割り当てられている IP アドレスを表示します。
サブネットマスク	本製品に割り当てられているサブネットマスクを表示します。
DHCPサーバー	本製品の DHCP サーバー機能の有効・無効を表示します。
MACアドレス	本製品の LAN 側の MAC アドレスを表示します。

[最新情報に更新]ボタン	表示を最新に更新します。
[接続ログ]ボタン	[接続ログ]画面では本製品のシステム上で発生したイベントや情報を表示することができます。(次ページ参照)
[DHCPクライアント情報]ボタン	DHCP クライアント情報を表示します。(次ページ参照)

・接続ログ

本製品の接続に関しての簡易ログが表示されます。

接続ログ

画面表示時間：2001年XX月XX日 XX:XX:XX

```
* Restarted by 192.168.0.28
* DOD:triggered internally
2001年88月88日 88:88:88 DHCP:discover()
2001年88月88日 88:88:88 DHCP:offer(888.888.888.8)
2001年88月88日 88:88:88 DHCP:request(888.888.888.88)
2001年88月88日 88:88:88 DHCP:ack(DOL=1800,T1=900,T2=1575)
```

戻る 更新

・DHCPクライアント情報

本製品がDHCPサーバ機能を使用して割り当てを行っているパソコンのリストが表示されます。

DHCPクライアントリスト

IPアドレス	ホスト名	MACアドレス
192.168.0.5	iodata01	00-A0-B0-XX-XX-XX
192.168.0.28	iodata02	00-A0-B0-XX-XX-XX

戻る 更新

管理設定
（パスワード、セキュアホスト、DMZホストを設定する）

ここでは、[設定メニュー]の[管理設定]について説明します。

◆管理設定

管理設定では、管理者パスワードの変更や管理者タイムアウト時間、セキュアホスト、DMZホストを設定することができます。

管理者設定

管理者パスワード設定	
現在のパスワード	
新しいパスワード	
新しいパスワード再入力	
	OK クリア

管理者タイムアウト時間	600 秒 ("0"に設定すると無効になります)
セキュアホスト	◉ 無効 ○ 有効 0.0.0.0
DMZホスト	◉ 無効 ○ 有効 192.168.0.
シスログ	◉ 無効 ○ 有効 192.168.0.

パスワードを設定する

本製品の設定は、装置が接続されているネットワークのセキュリティにも影響を与えます。したがって、設定内容が無断で変更されたりしないよう、セキュリティに責任を持つネットワーク管理者だけが変更できるようにする必要があります。
本製品の場合、設定画面起動時に入力するパスワードによって部外者からの設定変更を防ぐことができます。
工場出荷時にパスワードは設定されていませんので、パスワードを設定することをおすすめします。

管理者設定

管理者パスワード設定	
現在のパスワード	
新しいパスワード	
新しいパスワード再入力	
	OK　クリア

管理者タイムアウト時間	600 秒 ("0"に設定すると無効になります)
セキュアホスト	◉ 無効 ○ 有効 0.0.0.0
DMZホスト	◉ 無効 ○ 有効 192.168.0.
シスログ	◉ 無効 ○ 有効 192.168.0.

注意！

パスワードは、「設定なし」に変更することはできません。

パスワードは必ずメモなどして忘れないようにしてください。
忘れてしまった場合は、【[RESET]ボタンによる初期設定への戻し方】(126 ページ)をご覧になり購入時の「パスワード設定なし」の状態に戻すことができますが、すべての設定した内容が購入時の状態に戻りますので、最初からすべて設定しなおす必要があります。

管理者のタイムアウト時間を設定する

設定された時間、設定画面にアクセスを行わないと自動的にログアウトします。
再度設定を行いたい場合は、ログインしなおしてください。

管理者設定

管理者パスワード設定	
現在のパスワード	
新しいパスワード	
新しいパスワード再入力	
	OK クリア
管理者タイムアウト時間	600 秒 ("0"に設定すると無効になります)
セキュアホスト	◎無効 ○有効 0.0.0.0
DMZホスト	◎無効 ○有効 192.168.0.
シスログ	◎無効 ○有効 192.168.0.

"0"に設定するとタイムアウトは無効になります。

セキュアホストを設定する

セキュアホストとは、NATを使用している場合でもインターネット側から本製品にアクセスして、リモートで本製品の設定を変更できるようにする機能のことです。

管理者設定

管理者パスワード設定

現在のパスワード

新しいパスワード

新しいパスワード再入力

OK　クリア

管理者タイムアウト時間　600 秒 ("0"に設定すると無効になります)

セキュアホスト　◉無効　○有効 0.0.0.0

DMZホスト　◉無効　○有効 192.168.0.

シスログ　◉無効　○有効 192.168.0.

セキュアホスト	セキュアホストを有効にした場合、セキュアホスト機能を利用するIPアドレスを指定します。 始点IPアドレスに「0.0.0.0」を設定すると、インターネット上の全てのホストから本製品にアクセスできます。 (*危険な設定です。!*) このときWebアクセスポートは“81”に変更になります。 “10.1.2.0/24”のようにサブネットマスクビットを指定すると特定のIPアドレスグループを指定することができます。

DMZホストを設定する

[DMZホスト]設定では、インターネットゲーム（対話型）やテレビ会議などの双方向で使用する場合に、 使用パソコンのプライベートIPアドレスを指定します。
セキュリティ上、必要な時以外は、使用しないでください。
IPアドレスは固定で使用してください。（DHCPで割り当てる範囲外のIPアドレスとしてください。）

管理者設定

管理者パスワード設定	
現在のパスワード	
新しいパスワード	
新しいパスワード再入力	
	OK クリア
管理者タイムアウト時間	600 秒 ("0"に設定すると無効になります)
セキュアホスト	◉ 無効 ○ 有効 0.0.0.0
DMZホスト	◉ 無効 ○ 有効 192.168.0.
シスログ	◉ 無効 ○ 有効 192.168.0.

DMZホスト	有効にした場合は、DMZホスト機能を有効にするパソコンのIPアドレスを入力します。

DMZ ホストを有効にした場合、DMZ ホストに指定されたパソコン以外のパソコンからもインターネットへの接続は可能ですが、仮想サーバ機能との併用はできません。

シスログ（SYSLOG）を設定する

[シスログ]設定では、“WN-B11/BBRHで発生したイベントの情報（システム・ログ情報）を転送するパソコン”のプライベートIPアドレスを指定します。
シスログを受信するためには、シスログサーバーソフトウェアが必要です。
（インターネット上で、フリーウエアをダウンロードできます。）
なお、指定するIPアドレスは固定IPアドレスとしてください。（DHCPで割り当てる範囲外のIPアドレスとしてください。）

管理者設定

管理者パスワード設定	
現在のパスワード	
新しいパスワード	
新しいパスワード再入力	
	OK　クリア
管理者タイムアウト時間	600 秒 （“0”に設定すると無効になります）
セキュアホスト	◉無効 ○有効 0.0.0.0
DMZホスト	◉無効 ○有効 192.168.0.
シスログ	◉無効 ○有効 192.168.0.

シスログ	有効にした場合は、ログを転送するパソコンのIPアドレスを入力します。

本体再起動
（本製品内部で再起動させる）

ここでは、[設定メニュー]の[本体再起動]について説明します。

◆本体再起動

設定した内容を本製品に反映させるには、必ず再起動が必要です。

[本製品再起動]をクリックすると以下の画面が表示されます。
[OK]ボタンをクリックします。
設定画面上に「再起動しています」と表示されます。
正常に再起動が終了すると、ステータス画面に戻ります。

初期設定に戻す
（設定をすべて初期の設定に戻す）

ここでは、［設定メニュー］の［初期設定に戻す］について説明します。

◆初期設定に戻す

設定をすべてはじめから行いたい場合などに行います。

注意！

・以下の手順を行うと、変更した設定内容は、管理者パスワード以外すべて工場出荷時状態になります。設定画面で最初からすべて設定し直してください。

・管理者パスワードのみ初期化されません。管理者パスワードを含めたすべてを初期化する場合は、［RESET］ボタンによる初期化を行ってください。（【［RESET］ボタンによる初期設定への戻し方】126 ページ参照）

［初期設定に戻す］をクリックすると以下の画面が表示されます。

［OK］ボタンをクリックします。

設定がすべて初期設定に戻ります。

ファームウェア更新
（本製品のファームウェアを更新する）

◆ファームウェア更新

ここでは、[設定メニュー]の[ファームウェア更新]について説明します。
本製品のファームウェアを最新にアップデートすることができます。

1 弊社ホームページの「サポートライブラリ」（ *http://www.iodata.jp/lib/* ）より、最新のファームウェアファイルを入手してください。

2 安全に更新するために、以下の作業を行ってください。
・本製品の設定をするパソコン以外のパソコンのケーブルを外します。
・WANポートのケーブルを外します。
・パソコンに常駐しているソフトウェアを停止します。

3 入手後、[設定メニュー]の[ファームウェアの更新]をクリックします。

4 以下の画面が表示されます。
[参照]ボタンでファームウェアファイルの場所を指定します。
指定後、[更新]ボタンをクリックします。20秒ほどそのままお待ちください。
⇒更新が正常に終了すると、本製品は再起動を行います。

ファームウェア更新

ファームウェアのファイル名	[ ] 参照...

現在のファームウェア バージョンは R1.93y です。更新にはおよそ20秒かかります。
注意！更新している最中に電源を切らないでください。更新が正常に終了すると、自動的に再起動します。

更新

更新中は、絶対に本製品の電源を切らないでください。
故障の原因となります。

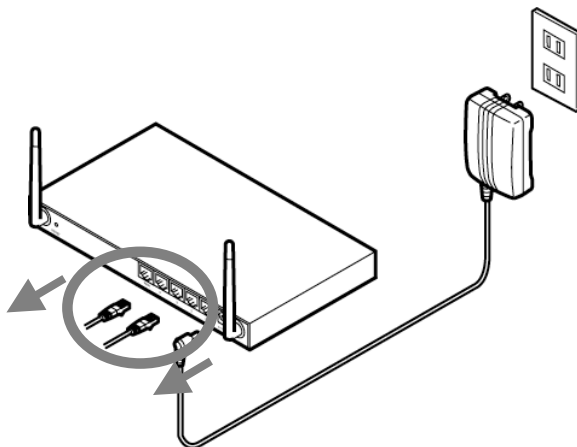
[RESET]ボタンによる初期設定への戻し方
(本製品背面の[RESET]ボタンでの操作)

ここでは、本製品背面の[RESET]ボタンで本製品を初期設定に戻す手順について説明します。
[設定メニュー]の[初期設定に戻す]でも本製品を初期設定に戻すことができますが、設定画面が起動しないなど、手動で行うしかない場合に以下の手順を行ってください。

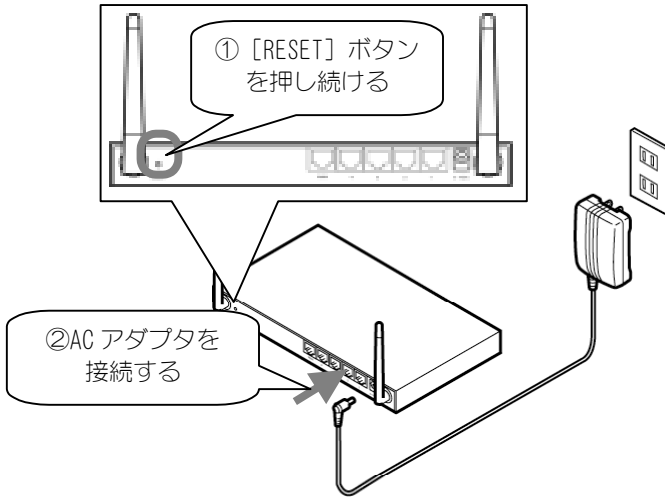
注意!

以下の手順を行うと、変更した設定内容は、すべて初期設定(出荷時設定)となります。設定画面で最初からすべて設定し直してください。

1 本製品を使っていないことを確認します。

2 本製品からACアダプタやLANケーブルを取り外します。

3 ［RESET］ボタンを細いピンなどで押し続けながら、ACアダプタを接続（本製品の電源を入れる）します。

[RESET]ボタンは、以下の後、離します。

- ・[POWER]ランプが点灯
- ・すべての[SPEED]ランプが2回点滅
- ・すべての[LAN-LINK]ランプが2回点滅

以上で本製品を初期設定に戻す設定は終了です。
再度最初から本製品を設定し直してください。

Windows（MSN） Messengerについて

ここでは、Windows MessengerやMSN Messengerを利用する方法やUPnP設定について説明します。

Windows(MSN) Messengerを利用する

Windows（MSN） Messengerの確認方法を説明します。

☞ 130ページ

UPnPを設定する

UPnPの設定/確認方法を説明します。

☞ 131ページ

Windows(MSN) Messengerを利用する

本製品ではユニバーサルプラグアンドプレイ(UPnP)機能を使用し、下記に対応しております。

●Windows XPのWindows Messenger（Ver.4.6以上）

●Windows MeのMSN Messenger（Ver.4.6以上）

※UPnPを使用するときは、最新のアプリケーションをご利用ください。

●Windows XPのWindows Messengerを利用する

UPnP機能を有効にして、Windows Messengerを利用すると、「インスタントメッセージの送信」以外に、「ファイルの送信」「ホワイトボード」「ビデオチャット」「音声チャット」がお楽しみいただけます。

●Windows MeのMSN Messengerを利用する

UPnP機能を有効にして、MSN Messengerを利用すると、「インスタントメッセージの送信」以外に、「ファイルの送信」「音声チャット」がお楽しみいただけます。

以下のような環境の場合、UPnP機能を使用してもWindows Messenger、MSN Messengerの一部機能しかご利用できませんのでご注意ください。

・プロバイダから、プライベートIPアドレスを割り当てられている場合

・ルータ機能内蔵タイプのADSLモデムに接続して使用する場合

Windows Messenger、MSN Messengerの使用方法については、マイクロソフト株式会社にお問い合わせください。

UPnPを設定する

本製品は常にUPnP機能が有効になっていますが、Windowsで下記設定をする必要があります。

●UPnPを設定する

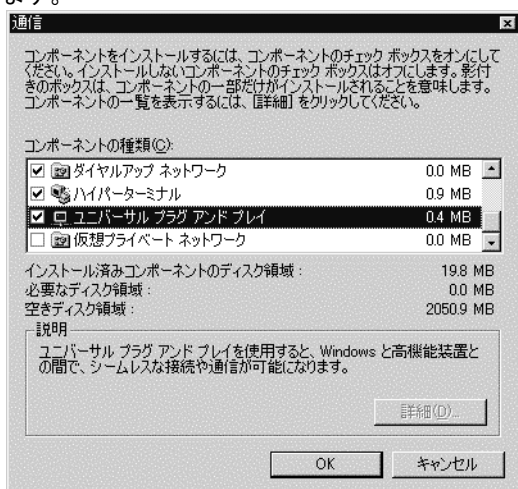
●Windows XPの場合

①[スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。
②[プログラムの追加と削除]を開き、[Windowsコンポーネントの追加と削除]を開きます。
③[ネットワークサービス]を選び、[詳細]ボタンをクリックします。
④[ユニバーサルプラグアンドプレイ]にチェックを入れて[OK]ボタンをクリックします。

⑤「Windowsコンポーネントウィザード」に戻りますので[次へ]ボタンをクリックします。
⑥ウィザードが完了したら[完了]をクリックします。

これでUPnP機能は有効になります。

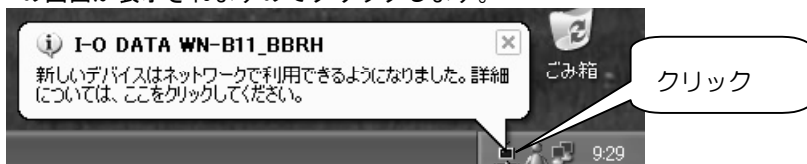
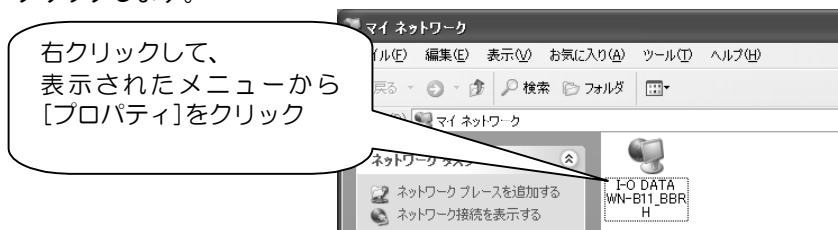
●Windows Meの場合

①マイクロソフト株式会社の指示にしたがい、DirectX8.1以降をインストールしてください。
※DirectXについてはマイクロソフト株式会社にお問い合わせ下さい。
②[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックします。
③[アプリケーションの追加と削除]を開き、[Windowsファイル]タブを開きます。
④[通信]を選び、[詳細]ボタンをクリックします。
⑤[ユニバーサルプラグアンドプレイ]にチェックを入れて[OK]ボタンをクリックします。

⑥[アプリケーションの追加と削除のプロパティ]に戻りますので[OK]をクリックします。

これでUPnP機能は有効になります。

●UPnPを確認する

確認方法はWindows XP/Me共通です。（説明はWindows XPの例です。）

①UPnP機能が有効になると、ネットワーク上のWN-B11/BBRHが検出され以下の画面が表示されますのでクリックします。

②「I-O DATA WN-B11_BBRH」アイコン上で右クリックし、[プロパティ]をクリックします。

③下の画面が表示されていたら、正常にWN-B11/BBRHが認識されています。
※正常に認識されていない場合は、【●UPnPを設定する】をご覧の上、設定をご確認ください。

付録

困った時には

本製品を使用して異常があった場合にご覧ください。

弊社ホームページをご覧ください

サポートWebページ内には、過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらも参考にしてください。

http://www.iodata.jp/support/

製品Q＆A
Newsなど

状態 － 設定時のトラブル	ページ
設定画面が表示されない	137
CATV局がユーザを[コンピュータ名]で管理している場合の設定方法がわからない	139
パソコンをIPアドレスなどの自動取得(DHCPクライアント)として設定しているのに、IPアドレスなどを取得できない	
PPPoE接続で取得したグローバルIPアドレスを調べたい	140
LAN側(LANコネクタ[1]～[4]側)のIPアドレスを変更したら接続できなくなった	
管理者の[パスワード]を忘れた	
設定画面で文字が入力できない	141
[TCP/IP]が表示されていない　(Windows Me/98/95の場合)	

状態 －ADSL/FTTH/CATV接続時のトラブル	ページ
ADSLモデム(ブリッジタイプ)を使ってインターネットに接続できない	143
ADSLモデム(ブリッジタイプ)を設定したのに、[ステータス情報]の[接続状態]の表示が「－」のままとなっている	144
CATVに接続できない	145
CATVを設定したのに、[ステータス情報]の[リース残り時間]または[IPアドレス]が取得できない	146
ブラウザを起動すると、以下のエラーが表示される *「モデムが正しく応答していません。モデムが電話回線およびコンピュータに正しく接続されているかどうかを確認してください。」*	

状態 － 無線LAN接続時のトラブル	ページ
無線LANのパソコンと通信できない	147
暗号キーを使用したら通信速度が低下した	148
他のアクセスポイントと通信できない	

設定時のトラブル

設定画面が表示されない

原因1	接続が正しく行われていない。
対処	本製品の電源が入っているか([POWER]ランプが点灯、[M1]ランプが点滅しているか)、接続ケーブルが LAN に接続されているか再度確認してください。(パソコンを接続しているポートの[LAN-LINK]ランプが点灯または点滅しているか)

原因2	Web ブラウザが、プロキシ経由でインターネット接続するようになっている。
対処	WEB ブラウザから本製品の設定を行う場合は、ブラウザの設定でプロキシサーバーを使わない設定にしてください。 ブラウザがプロキシサーバーを使用する設定になっていた場合、本製品の設定画面を呼び出す事ができません。 なおプロバイダからの指示がプロキシサーバーを使用する設定で案内されている場合は本製品の IP アドレスのみ、プロキシサーバーを使用しない設定にする必要があります。 (【4. Web ブラウザを設定する】58 ページ参照)

原因3	ご使用のパソコンに IP アドレス、ゲートウェイアドレスが割り当てられていない
対処	【2. IP アドレスを設定する】(42 ページ)を参照して、IP アドレスの設定を確認してください。

原因4	《70 ページで本製品 LAN 側 IP アドレスを変更した場合》 IP アドレスが正常に取得できていない。
対処	現在設定パソコンで取得している IP アドレスをいったん解放し、再取得します。次ページの手順にしたがってください。

●IPアドレスの開放と更新方法

《Windows XP/2000/NT 4.0の場合》

①コマンドプロンプトを起動します。

・Windows XPの場合
［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→
［コマンドプロンプト］を順にクリックして起動します。

・Windows 2000の場合
［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→
［コマンドプロンプト］を順にクリックして起動します。

・Windows NT 4.0の場合
［スタート］→［プログラム］→［コマンドプロンプト］を
クリックして起動します。

②ipconfig –release を実行します。（解放）

③ipconfig –renew を実行します。（再取得）

《Windows Me/98/95の場合》

①WINIPCFGを起動します。
［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックして、WINIPCFG
と入力し、[OK]ボタンをクリックします。

②[すべて解放]ボタンをクリックし、[OK]ボタンをクリックします。

③パソコンを再起動します。

CATV 局がユーザを[コンピュータ名]で管理している場合の設定方法がわからない

対処	CATV 局からの[コンピュータ名]を、本製品の[ホスト名]に設定してください。 ([WAN 側設定]→[CATV 接続設定]→[DHCP で取得する]→[ホスト名]へ設定してください。)

パソコンを IP アドレスなどの自動取得(DHCP クライアント)として設定しているのに、IP アドレスなどを取得できない

原因	ネットワークの設定に問題がある。
対処	本製品の[LAN-LINK]ランプが正しく点灯している場合は、以下の対応方法が考えられます。 ・前ページのアドレスの解放と更新を行う。 ・LAN アダプタのドライバを最新のものへ更新する。 (ドライバの更新、通信方式の変更方法につきましては LAN アダプタのメーカーへお問い合わせください。) ・パソコンとの間にスイッチングハブが入っている場合は、スイッチングハブを初期化する。 (スイッチングハブの初期化方法についてはスイッチングハブのメーカーへお問い合わせください。) これらの方法でも DHCP クライアントとして IP アドレスなどを取得することができない場合は、お手数ですが、固定(手入力)でネットワークの設定を行ってください。なお、固定でネットワークの設定を行う場合は、ネットワークアドレスを合わせる必要があります。 デフォルト値(工場出荷値)で運用する場合は、TCP/IP 設定に以下の値を使用します。 IP アドレス: 192.168.0.2～192.168.0.254 から他の機器と重複しない任意の IP アドレス サブネットマスク: 255.255.255.0 デフォルトゲートウェイ(ルータアドレス): 192.168.0.1

PPPoE 接続で取得したグローバル IP アドレスを調べたい

対処	Web ブラウザの設定メニューから[ステータス]を選択してください。 PPPoE(IPCP)で取得したグローバル IP アドレス([IP アドレス])、プロバイダ側でゲートとなっているマシンのグローバル IP アドレス([デフォルトゲートウェイ])、DNS サーバーアドレス([プライマリ DNS アドレス]、[セカンダリ DNS アドレス])を確認する事ができます。

LAN 側(LAN コネクタ[1]～[4]側)の IP アドレスを変更したら接続できなくなった

対処	***・パソコンに固定で IP アドレスを設定している場合*** 1.パソコンの IP アドレスには、新しく設定した(変更した)ルータの LAN 側 IP アドレスと同じネットワーククラスの IP アドレスを設定してください。 2.パソコンのゲートウェイ(ルータアドレス)と DNS アドレスには、新しく設定した(変更した)ルータの LAN 側 IP アドレスを設定してください。 ***・パソコンに IP アドレスを自動的に取得させている場合*** パソコンの再起動、または、パソコンが自動的に取得しているアドレスの解放と書き換えを行ってください。

管理者の[パスワード]を忘れた

対処	126 ページで初期設定に戻してください。

設定画面で文字が入力できない

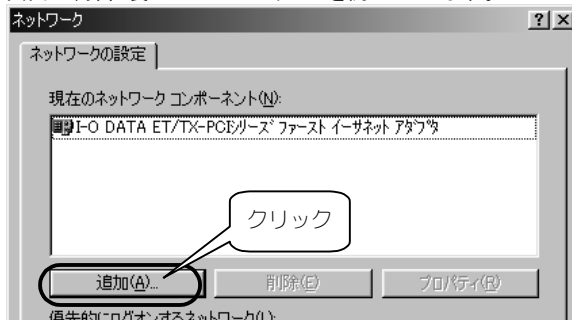
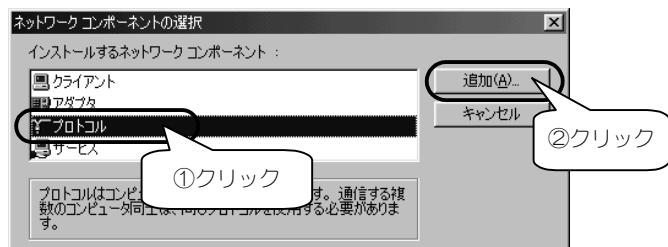
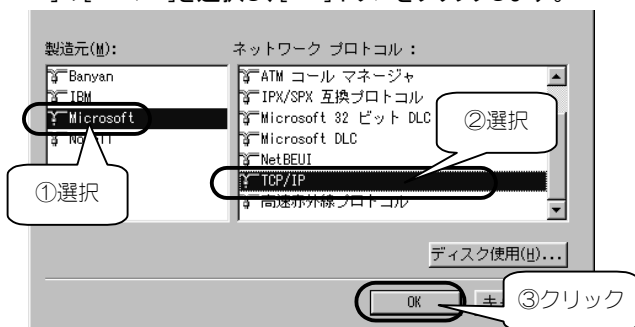
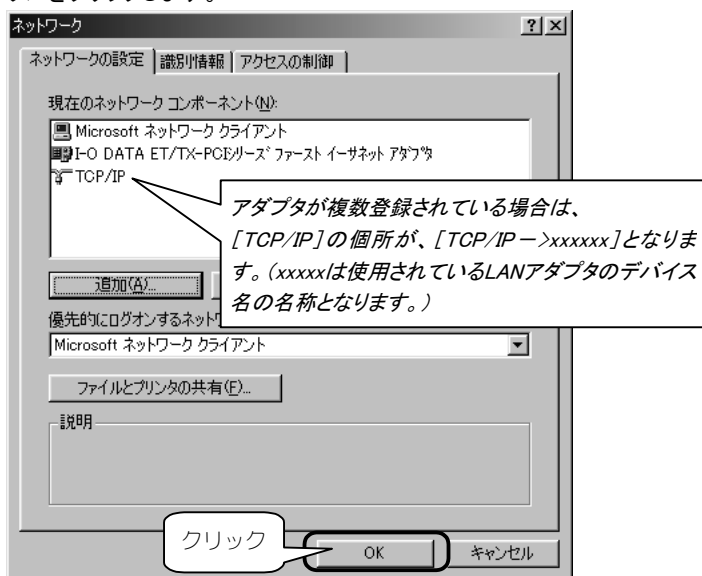
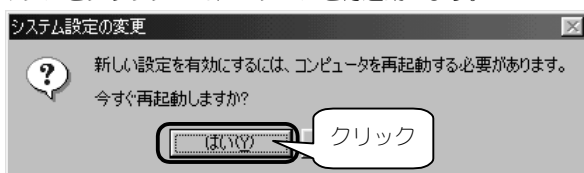
原因1	入力個所をクリックしていない。
対処	一度入力したい個所をクリックしてから入力してください。

原因2	入力できない文字を入力しようとしている。
対処	入力できる文字(半角英数字)かを確認してから入力してください。

[TCP/IP]が表示されていない　(Windows Me/98/95 の場合)

原因	TCP/IP プロトコルがインストールされていない。
対処	下記の手順で TCP/IP をインストールします。

1 「ネットワーク」を起動します。
[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、
[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

2 [追加]ボタンをクリックします。
※以下の画面は、弊社製ET/TX-PCIシリーズを例にしています。

3 [プロトコル]を選択し、[追加]ボタンをクリックします。

4 [Microsoft]の[TCP/IP]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

5 [OK]ボタンをクリックします。

6 [はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動します。

ADSL/FTTH/CATV接続時のトラブル

ADSL/FTTH モデム(ブリッジタイプ)を使ってインターネットに接続できない

原因1	この状態は、[WAN]側で PPPoE 接続の設定が有効になっていない状態を示しています。
対処	PPPoE 接続の設定を確認してください。 (【ADSL/FTTH で使用する】76 ページ参照)

原因2	パソコン側の TCP/IP 設定に誤りがある
対処	パソコン側の TCP/IP 設定をご確認ください。 IP アドレスを自動的に取得している場合は、IP アドレスの解放と書き換えを行ってください。 IP アドレスを固定で設定している場合は、パソコンに設定した IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS サーバーのアドレスを確認してください。

原因3	PPPoE の認証に失敗している。
対処	[WAN 側設定]→[ADSL 接続設定]で[ユーザーID]と[パスワード]を再度入力してください。

原因4	接続先のプロバイダの認証方式([CHAP]または[PAP])と 本製品の認証方式の違いで、PPPoE の認証に失敗している。
対処	プロバイダに認証方式([CHAP]または[PAP]のいずれか)を確認してください。 設定画面の[WAN 側設定]→[ADSL 接続設定]で[認証形式]を変更してください。

CHAP… ユーザー認証方式の1つで、PAP と違い、ユーザー名やパスワードを暗号化して通信するため、安全性が高い。

PAP… ユーザー認証方式の1つで、最も簡単な認証方式ですが、通信回線をモニターされるとユーザー名とパスワード情報が盗まれる可能性があります。

原因5	ADSL モデム(ブリッジタイプ)を使用するが、PPPoE 認証を使用しないサービス会社である。
対処	PPPoE 認証を行わないサービス会社の場合はブリッジタイプの ADSL モデムであっても PPPoE の設定を行う必要がありません。 DHCP を使用しますので、設定画面の[WAN 側設定]→[CATV 接続設定]で[DHCP で取得する]で設定してください。(89 ページ参照)

原因6	使用している ADSL モデムがルータタイプのモデムである。
対処	ルータタイプの ADSL モデムと接続する場合には、PPPoE の設定は不要です。 NAT を使用する場合には設定画面の[WAN 側設定]→[CATV 接続設定]で[手動で設定する]で設定してください。(89 ページ参照) [IP アドレス]には、ADSL サービス会社から割り当てられたグローバル IP アドレスを設定してください。

ADSL モデム(ブリッジタイプ)を設定したのに、[ステータス情報]の[接続状態]の表示が「－」のままとなっている

原因1	回線が不安定である。
対処	パソコンとモデムを直接つないで、インターネットに接続できるかをご確認ください。接続できない場合は、しばらく時間をおいてからお試しください。

対処	前ページに該当する個所の【対処】を参照してください。

CATVに接続できない

原因1	[WAN]ポートに IP アドレスが設定されていない。
対処	IP アドレスが固定割り当ての場合は、あらかじめ本製品の[WAN]ポートに CATV 局から割り当てられた IP アドレスを設定する必要があります。 パソコンの IP アドレスを本製品の LAN コネクタ[1]～[4]側 IP アドレスと同じクラスのネットワークアドレスに合わせる必要があります。 本製品が工場出荷値の場合、パソコンの TCP/IP 設定に以下の値を使用します。 IP アドレス： 192.168.0.2～192.168.0.254 から任意のもの サブネットマスク： 255.255.255.0 デフォルトゲートウェイ： 192.168.0.1 その後、設定画面で本製品の WAN 側 IP を CATV 指定のものに設定してください。

原因2	CATV 局から IP アドレスを取得できていない。
対処	CATV 局によっては、MAC アドレスを登録したネットワーク機器のみでしか CATV に接続できなくしている場合があります。 MAC アドレスは、LAN ボード/カードや本製品などにそれぞれ別々の値が設定されていますが、CATV 局側が、本製品導入以前に接続していたパソコンの LAN ボード/カードの MAC アドレスを登録したままにしていると、本製品を導入しても CATV 局側が本製品の MAC アドレスを認識しません。CATV 局へ本製品の MAC アドレスに登録を変更する手続きを行ってください。 本製品の MAC アドレスは本体底面のシール、または設定メニューの[ステータス]で確認することができます。その際、CATV 局へ報告する MAC アドレスは WAN 側の MAC アドレスとなります。

原因3	ケーブルモデムのメモリ内に以前接続していたパソコンの情報が記憶されている。
対処	ケーブルモデムのメモリ内に以前接続していたパソコンの情報が記憶されているためにケーブルモデムが本製品を認識できないという場合があります。 ケーブルモデムの初期化を行った後、再度接続してみてください。 (初期化の方法についてはケーブルモデムの取扱説明書などをご覧ください)

CATV を設定したのに、[ステータス情報]の[リース残り時間]または[IP アドレス]が取得できない

対処	前ページ【CATV に接続できない】の【対処】を参照してください。

ブラウザを起動すると、以下のエラーが表示される

「モデムが正しく応答していません。モデムが電話回線およびコンピュータに正しく接続されているかどうかを確認してください。」(以下の画面)

原因	ダイヤルアップネットワークでダイヤルアップする設定となっている。
対処	【4. Web ブラウザを設定する】(58 ページ)を参照して、Web ブラウザを設定してください。

無線LAN接続時のトラブル

無線 LAN のパソコンと通信できない

原因1	無線 LAN のパソコンの無線の設定が正しくない。
対処	無線 LAN のモードが[Infrastructure]に、SS ID を本製品の値と同じにしているか確認してください。 (【1．無線 LAN 設定】36 ページ参照)

原因2	無線 LAN のパソコンが Windows Me/98/95 の場合で、正常にログインしていない。(パソコン起動時の[ユーザー名][パスワード]の入力画面で[キャンセル]ボタンをクリックしているなど)
対処	パソコン起動時の[ユーザー名][パスワード]の入力画面で正しい[ユーザー名][パスワード]を入力してください。

原因3	無線 LAN のパソコンの IP アドレスの設定が正しくない。
対処	無線 LAN のパソコンで TCP/IP を使用している場合は、正しい IP アドレスを設定してください。IP アドレスが正しいかについては、【IP アドレスを確認する】(54 ページ以降)も参照してください。

原因4	電波の状態が悪い。
対処	無線 LAN と本製品間の距離を短くしたり、障害物を取り除いて見通しをよくしたりしてみてください。

原因5	暗号キーの設定があっていない。
対処	本製品と無線 LAN の暗号キーの設定を同じ暗号化キーにしてください。 (【無線 LAN 側設定】99 ページ参照)

原因6	無線 LAN 製品側のパソコンの IP アドレスを DHCP サーバーから正しく取得していない。
対処	IP アドレスを DHCP サーバーから取得している場合は、DHCP サーバーが起動していること、本製品の電源が入っていることを確認してから、無線 LAN 製品側のパソコンの電源を入れてください。

暗号キーを使用したら通信速度が低下した

対処	暗号化通信では、送信するデータをすべて暗号化／復号化する必要がありますので、通信速度が若干低下します。

他のアクセスポイントと通信できない

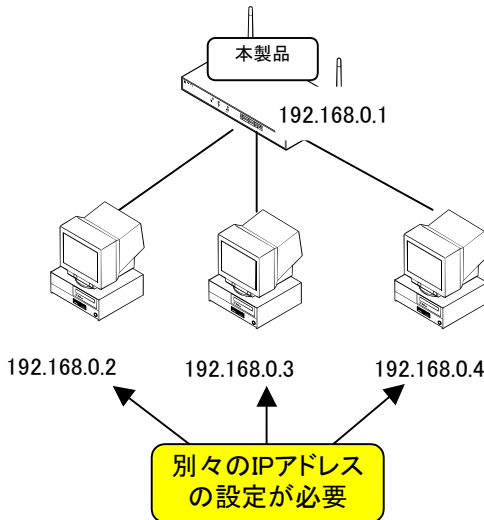
対処	本製品同士を含むアクセスポイント同士の無線 LAN による通信はできません。

TCP/IPの基礎知識

ここでは、本製品を使用する上で必要となるTCP/IPプロトコルのIPアドレスの基礎知識について説明します。必要に応じてお読みください。

IPアドレス

同じネットワーク上では別々のIPアドレスが必要

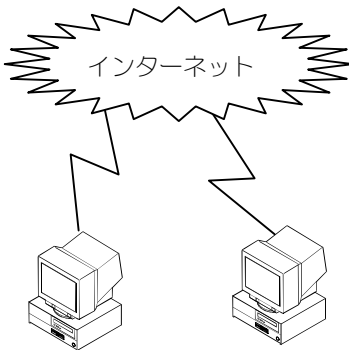
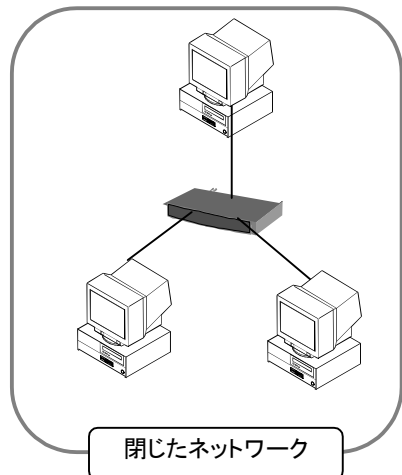
本製品および本製品に接続したパソコンのすべてに別々のIPアドレスの設定が必要です。IPアドレスとは、データを送受信するためのパソコン同士で理解できる住所のようなものです。
町の1軒1軒の家が別々の住所を持つように、パソコンも1台1台が別々のIPアドレスを設定する必要があります。同じIPアドレスを持つパソコンがあるとどちらにデータを送ればいいのかわからなくなるためです。
例えば、本製品は出荷時「192.168.0.1」のIPアドレスを持ちますが、ネットワーク上に、同じIPアドレスを設定したパソコンがあると、他のパソコンから本製品やその同じIPアドレスのパソコンにアクセスできなくなります。

インターネットのIPアドレスとLANのIPアドレス

IPアドレスには、「グローバルIPアドレス」と「ローカルIPアドレス」（プライベートIPアドレス）があります。
「グローバルIPアドレス」は、インターネットで使用するIPアドレスです。
「ローカルIPアドレス」は、通常LAN内で使用するIPアドレスです。

グローバル IP アドレス	ネットワーク上で別々の IP アドレスが必要であるように、インターネットを利用する世界中のすべてのパソコンがそれぞれ別々の IP アドレスを使用する必要があります。この IP アドレスがグローバル IP アドレスです。 通常、プロバイダより割り当てられます。
ローカル IP アドレス	インターネットに接続されていない環境（家庭内のみ、会社内のみなど）では、ネットワーク内で別々の自由な IP アドレスを使用することができます。 この IP アドレスがローカル IP アドレスです。

グローバルIPアドレス

ローカルIPアドレス

閉じたネットワーク

LAN内で使用するIPアドレスのクラス

IPアドレスは、ネットワークを構成するパソコンの台数に応じて、3つのクラスに分かれます。
大規模なネットワークならば[クラスAのIPアドレス]、中規模なら[クラスBのIPアドレス]、小規模の場合は[クラスCのIPアドレス]となります。
同一のネットワーク内では、同一クラスのIPアドレスである必要があります。
実際には、本製品の出荷時のIPアドレス「192.168.0.1」のように、IPアドレスは、ピリオドで区切られた4つの数字の羅列で構成されていて、4つの数字の最初の数字の値で、クラスが分けられます。

例　本製品の出荷時のIPアドレス「192.168.0.1」の場合は「192」

クラスは以下のように分類されています。

IP アドレスの最初の数字※	クラス	用途（ネットワークを構成するパソコンの台数）
1～127	クラスA	大規模ネットワーク用（最大約 1600 万台）
128～191	クラスB	中規模ネットワーク用（最大約 65000 台）
192～223	クラスC	小規模ネットワーク用（最大約 250 台）

※「224～255」は通常の IP アドレスとしては使われていません。

例えば、数台～数10台で構成されるネットワークでは、クラスCのIPアドレスを使用します。
通常、ネットワークを構成する場合は、以下の特別なローカルIPアドレスを使用します。

クラス	設定する IP アドレス
クラスA	10.0.0.0　～　10.255.255.255
クラスB	172.16.0.0　～　172.31.255.255
クラスC	192.168.0.0　～　192.168.255.255

DHCP

DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）とは、IPアドレスの自動割り当て機能のことです。

DHCPは、DHCPサーバーとDHCPクライアントで構成され、DHCPサーバーがDHCPクライアントに使用可能なIPアドレスを割り当てます。

例えば、本製品をDHCPサーバーとし、複数台のすべてのパソコンをDHCPクライアントに設定した場合、各パソコンは、パソコン起動時に使用可能なIPアドレスを入手し、終了時に開放します。

●*DHCP の特徴*

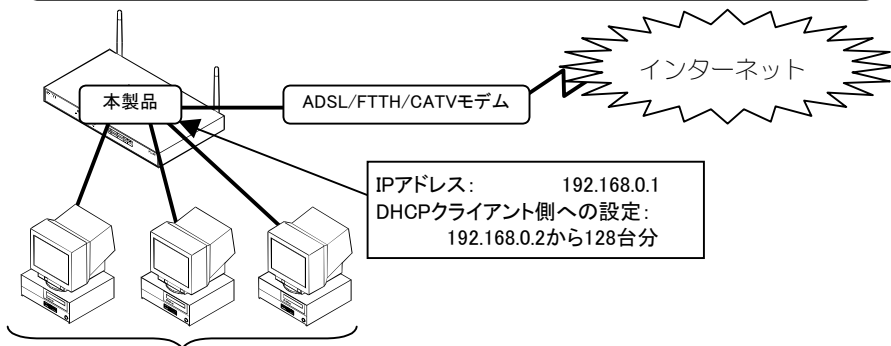
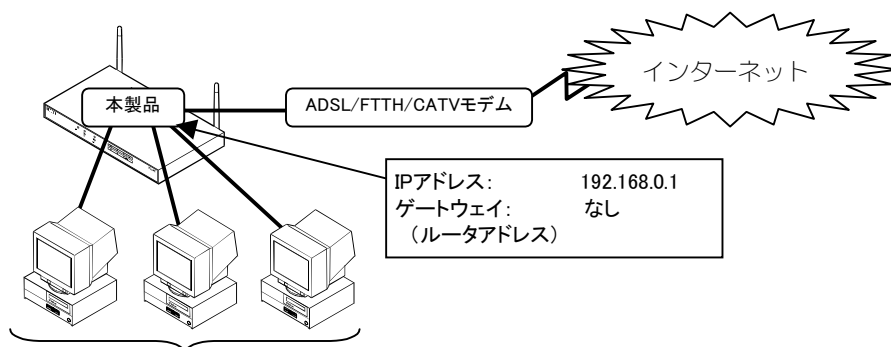
・個々のパソコンに IP アドレスをセットする手間が省けます。
・設定できる IP アドレスが変更された場合、DHCP サーバーのみの変更で済みます。
　そのため、クライアント側で IP アドレスを考慮する必要がなくなります。
　DHCP クライアント側では、DNS やゲートウェイ（ルータ）の IP アドレスも自動で設定されます。
・DHCP クライアント側の IP アドレスは、起動時毎に毎回異なる場合があります。

注意！

本製品を DHCP サーバーとした場合は、必ず本製品が正常に起動した後に、パソコンを起動してください。パソコンを先に起動すると IP アドレスが正常に割り当てられなくなる場合があります。

具体的なIPアドレスの設定例

ここでは、小規模ネットワークでの、本製品を使用した場合の IP アドレスの具体的な設定例について説明します。

本製品をDHCPサーバーとして使用する場合の例

IPアドレスをすべて手動で設定する場合の例

IPアドレス:	192.168.0.2	192.168.0.3	192.168.0.4
ゲートウェイ:	192.168.0.1	192.168.0.1	192.168.0.1

●通信や接続が正しくできるかの確認方法（PINGコマンド）

Windows標準のPINGコマンドを使用して相手先のパソコンに正常に通信、あるいは接続が正常かを確認することができます。

PING コマンドを使用するには、TCP/IP がインストールされている必要があります。

1 [MS-DOSプロンプト]（またはコマンドプロンプト）を起動します。

・Windows XPの場合

［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］を順にクリックして起動します。

・Windows 2000の場合

［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］を順にクリックして起動します。

・Windows Meの場合

［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［MS-DOSプロンプト］を順にクリックして起動します。

・Windows 98/95の場合

［スタート］→［プログラム］→［MS-DOSプロンプト］を順にクリックして起動します。

・Windows NT 4.0の場合

［スタート］→［プログラム］→［コマンドプロンプト］をクリックして起動します。

2 以下のように入力し、[ENTER]キーを押します。

PING xxx.xxx.xxx.xxx　（xxx.xxx.xxx.xxx は相手先のIPアドレス）

入力例）　相手先のIPアドレスが「192.168.0.10」の場合は以下のように入力します。

PING　192.168.0.10

3 正常に相手先が表示されるか確認してください。

正常に接続されない場合、「Request timed out」や「Destination host unreachable」などと表示されます。

用語解説

ここでは、本製品の関連する用語について説明します。

10BASE-T

ツイストペアケーブル（10BASE-T ケーブル）を使用した Ethernet の通信方式の一つで、最大伝送速度は 10Mbps です。

100BASE-TX

ツイストペアケーブル（100BASE-TX ケーブル）を使用した Ethernet の通信方式の一つで、最大伝送速度は 100Mbps です。

Ad Hoc

「アドホック」といい、アクセスポイントを介さずに、パソコン同士が直接通信しあう形態です。
他にインフラストラクチャモード（Infrastructure mode）があります。

ADSL　*(Asymmetric Digital Subscriber Line)*

従来の電話回線（メタルケーブル）を利用し、専用のモデムで高速なデータ伝送を可能にしたデジタル技術の1つです。

CATV　*(CAble TV)*

同軸ケーブルによって接続した限定地域に対して、多様なサービスを提供するTV 放送システムです。

DHCP　*(Dynamic Host Configuration Protocol)*

自動的にネットワークの設定を行うプロトコル（通信手順）のことです。
DHCP サーバーはネットワークの DHCP クライアントに対して、自動的にネットワークの設定を行います。

DMZ　*（DeMilitarized Zone）*

Web、DNS、FTP などの公開サーバをインターネット側からの不正な攻撃から守るため、ファイヤウォールにより設けられたセグメントです。

DNS　*（Domain Name System）*

TCP/IP ネットワークで使われ、コンピュータについた名前と実際の IP アドレスを関連付けるシステムです。

DNS サーバー

ネットワークのグループについた名前を問い合わせると、その IP アドレスを教えてくれるサーバーのことです。DNS サーバーを使用することにより、WWW ブラウザ等のアドレス入力欄でアドレスを文字で入力することができます。
（IP アドレスの数値を直接入力する必要が無くなります）

DS-SS　*（Direct Sequence-Spread Spectrum）*

「直接拡散・スペクトラム拡散」方式といい、無線通信における変調方式の1つです。干渉がおきにくい、ノイズの影響を受けにくい、などの特徴があります。

Ethernet

Xerox 社、DEC 社、Intel 社の 3 社が仕様を開発した LAN の通信方式で、
10BASE-T、10BASE5 等があります。

FTTH　*（Fiber To The Home）*

光ファイバーを用いた高速デジタル通信網を個々の家庭まで敷設する通信ネットワーク構想です。

IEEE802.11

無線 LAN の国際的な標準規格です。
IEEE802.11b では、通信速度が 11Mbps まで拡張されています。

Infrastructure

「インフラストラクチャ」といい、アクセスポイントを介して通信する無線 LAN の形態のことです。

IP アドレス

TCP/IP プロトコル（インターネットで使用されている規約）を使用して構築されるネットワークで、接続されている全ての機器を区別するために付けられるアドレス（番地）のことです。

IP マスカレード

プロバイダから提供された一つのグローバル IP アドレスを複数のプライベート IP アドレスへ変換し、同時に複数台のコンピュータでインターネットに接続できるようにする機能です。NAT とは異なり、同時にインターネットへ接続できるコンピュータの台数は、プロバイダから提供されたグローバル IP アドレスの数には依存しません。

ただし、IP マスカレードでは正しく動作しないアプリケーションもありますので、その場合は NAT を使用します。

ISP （Internet Service Provider）

インターネット・サービス・プロバイダの略称です。（単にプロバイダと呼ばれることが多い）

企業や個人に対しインターネットへ接続する通信サービスを提供する回線業者のことです。

LAN （Local Area Network）

ローカル・エリア・ネットワークの略称です。小規模なコンピュータネットワークのことです。

LAN に対して WAN(Wide Area Network)があり、WAN は LAN 同士を結ぶ大規模なネットワーク（インターネット等）のことです。

MAC アドレス　(*Media Access Control Address*)

Ethernet 機器ごとの固有の物理アドレスです。
MAC アドレスは、先頭からの３バイトのベンダーコードと残り３バイトのユーザコードの６バイトで構成されています。
ベンダーコードは IEEE が管理／割当を行っており、ユーザコードは、Ethernet 機器の製造メーカが独自の番号（重複することのない）で管理を行い、世界中で単一のアドレスが割り当てられています。Ethernet ではこのアドレスを元にしてフレームの送受信を行っています。

NAT　(*Network Address Translator*)

LAN で使用しているプライベート IP アドレスをインターネットで使用できるグローバル IP アドレスへ変換することにより、プライベート IP アドレスしか持たない LAN のコンピュータからインターネットへ接続できるようにする機能です。
NAT の場合、プライベート IP アドレスとグローバル IP アドレスは 1 対 1 で対応していなければなりません。同時にインターネットへ接続できるコンピュータの台数は、ISP や RAS サーバーから提供されたグローバル IP アドレスの数に依存します。

POP　(*Post Office Protocol*)

電子メールをスプールしているシステムから、TCP/IP プロトコルを使ってメールスプールの内容を読み出すためのプロトコルです。
プロトコル仕様は RFC1939 で定義されています。
POP3 サーバとは受信メールサーバのことを指します。

PPPoE　(*PPP over Ethernet*)

ネットワーク（Ethernet）上で、ダイヤルアップ接続（PPP 接続）のような利用者のユーザー名、パスワードのチェックを行うために作り出された規格です。

SMTP　(*Simple Mail Transfer Protocol*)

電子メールを送信するためのプロトコルです。
プロトコル仕様は RFC821 などで定義されています。
SMTP サーバとは送信メールサーバのことを指します。

SS ID　（*Service Set ID*）

複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子（ID）です。
SS ID が一致していないとそのネットワークには参加できません。

TCP/IP　（*Transmission Control Protocol / Internet Protocol*）

通信プロトコルの1つ。
最も普及しているプロトコルで、インターネット上の通信にも使われています。

Telnet

遠隔地からほかのコンピュータにログインして、遠隔操作を行なう仮想端末プロトコルです。
プロトコル仕様は RFC854 で定義されています。
テキストベースの通信を行ない、コマンドを送信する際にはエスケープコードを利用します。一般的には TCP/IP のポート番号 23 番を使用します。

WAN　（*Wide Area Network*）

通常は LAN に対比して使用される言葉で、遠隔地にあるコンピュータ同士（LAN 同士）を公衆回線網を使って接続したネットワークのことです。

WEP　（*Wired Equivalent Privacy*）

IEEE802.11b に含まれる標準の暗号化方式です。
各無線通信機器同士が共通の暗号鍵を使用して通信データを暗号化します。
暗号鍵を知らないパソコンは通信に参加することができません。

xDSL　（*x Digital Subscriber Line*）

ADSL や SDSL、HDSL、VDSL などを総称して呼ぶ言葉です。

アクセスポイント

インフラストラクチャモード（Infrastructure mode）での通信の中継点となるポイントです。
他のパソコンでは、アクセスポイントと通信することで他のパソコンと通信します。
有線 LAN と無線 LAN の中継点ともなります。

クライアント

ネットワーク内で、サービスを受ける側のことです。

グローバル IP アドレス

インターネットを使うことを許された IP アドレスです。

ゲートウェイ

通信手順の異なるネットワーク同士を接続するための機器やシステムです。
ゲートウェイに該当する機器の IP アドレス（ゲートウェイアドレス）をゲートウェイと呼ぶこともあります。

サーバー

ネットワーク内で、他のパソコン（クライアント）からの要求を受け、サービスを提供する側のコンピュータのことです。

サブネットマスク

LAN で使用可能なアドレスの範囲を決めるために、IP アドレスと組み合わせる値です。

スタティックルーティング

ルーティングするための情報をあらかじめルータに設定しておき、常に決まったルートを通って目的のノード（ネットワークに接続されているコンピュータ等）へパケット（ネットワーク内を流れるデータ）を送る方法です。静的ルーティングとも呼びます。

セッション

TCP/IP プロトコルによるデータ処理の単位です。

ダイヤルアップ IP

インターネットへ接続する際に、モデムや TA 等で ISP へ電話をかけて接続する方法です。

チャンネル

無線通信では、使用する周波数帯域を分割して、それぞれの帯域で異なる通信を行うことができます。
チャンネルとは、その分割された個々の周波数帯域のことです。

パケット

ネットワーク内を流れるデータです。

パケットフィルタ

ルータの機能を強化して、個々のパケットの単位で通過させたり、禁止したりできるようにしたものです。

ハブ

10BASE-T ケーブル（RJ-45 規格）を複数本集めて、通信を行うための LAN 機器（集配線装置）です。

ピアツーピア接続

サーバー／クライアントのような上下関係の無い対等な関係で行う通信のことです。

ファイヤウォール

組織内外からの通信すべてに対して、通過させたり、禁止したりすることによって、必要なサービスだけをユーザーに提供しつつ、セキュリティを確保します。
名前の由来は「防火壁（firewall）」に因んでいます。

ファームウェア

本製品内部で動作し、本製品のコントロールを行うプログラムです。

プライベート IP アドレス

組織内部のネットワークアドレスとして、自由に利用できる IP アドレス。
以下のものが利用できるとされています。

ClassA　:　10.0.0.0～10.255.255.255
ClassB　:　172.16.0.0～172.31.255.255
ClassC　:　192.168.0.0～192.168.255.255

ブリッジ

LAN のセグメント間を相互接続する機器で、OSI 参照モデルのデータリンク層で動作します。
パケットの衝突(コリジョン)が増え、パフォーマンスが低下するという事態を回避するためコリジョンドメインを制限して、ネットワークを効率化するために作られたネットワーク機器です。

リンク

各機器間を接続することです。

ルータ

複数の LAN 等、ネットワークを相互に接続するための機器です。
異なるネットワーク間の中継点に設置して、ネットワークを介して送信されるデータをきちんと目的の場所に届ける役目を持っています。
ネットワーク内を流れてきたデータが外部のネットワーク宛であれば、ルータはそのデータを外部に送り出します。
ルータはそのときにどういう経路でデータを配信するかまで判断し、最適なルートに送り出しています。
必要によっては通過させるデータやプロトコルの種類を制限することも可能です。

ルーティング

ネットワークのパケットを、正しく目的ノード（ネットワークに接続されている機器）へ届くように制御することです。

ローミング

複数のアクセスポイントを設置した環境で、各アクセスポイントのサービスエリア間を移動した場合に、自動的にアクセスポイントを切り替える機能です。
その場合、それぞれのアクセスポイントの SS ID と WEP が同じ設定である必要があります。

バーチャルサーバ（仮想サーバ）

「バーチャルサーバー機能」といい、本製品では Web、DNS、FTP などのサーバーをインターネット上へ公開する場合に使用します。

仕様

規格	無線部：IEEE802.11，IEEE802.11b RCR STD-33,ARIB STD-T66 有線部：IEEE802.3u，IEEE802.3
周波数帯域	2.4GHz帯 （2.412～2.4835GHz）
チャンネル	1ch～14ch
伝送方式	直接拡散・スペクトラム拡散方式（DS-SS）
無線設備の種別	小電力データ通信システム
セキュリティ方式	WEP（Wired Equivalent Privacy） 64(40)/128(104)bit SS ID（Service Set ID）
アクセス方式	インフラストラクチャ［Infrastructure］
アンテナ方式	可動式ダイバシティアンテナ
インターフェース	LAN側： 10BASE-T/100BASE-TX(RJ-45) × 4ポート （スイッチングハブ搭載、MDI/MDI-X自動判別） WAN側： 10BASE-T/100BASE-TX(RJ-45) × 1ポート
対応プロトコル	TCP/IP
DHCP	DHCPサーバー： 最大253アドレス割り当て※ *※MACアドレス指定による固定割り当て可* DHCPクライアント
セッション数	1(PPPoEセッション) 最大256(IPマスカレードセッション)
MACアドレス接続制限	最大32エントリ
バーチャルサーバ	最大20エントリ DMZホスト登録機能
特殊アプリケーション	最大8エントリ
パケットフィルタ	OUT/IN各最大8エントリ ポート番号、IPアドレスでの設定

接続方式	常時接続、オンデマンド接続（CATVインターネット、ADSLなど※） PPPoE接続（ADSLなど※） *※ご契約のキャリア／プロバイダにより方式が異なります。*
PPPoE	ON/OFF可
ログ	簡易ログ機能（Web画面で表示）
電源	DC5V、最大1.5A
動作温度範囲	0～40℃
保存温度範囲	-10～60℃
動作湿度範囲	10～80%（結露無きこと）
保存湿度範囲	5～90%（結露無きこと）
寸法	214(W)×25(H)×127(D)mm （アンテナ、突起物は除く）
質量	約780g（本体のみ）
適応規格	VCCI ClassB

・WN-B11/BBRH出荷時設定表

項目		初期値
WAN側設定	接続	CATV接続設定
	IPアドレス	DHCPで取得する
	ホスト名	空白
	自動再接続	有効
	プライマリDNSアドレス	0.0.0.0（自動取得）
	セカンダリDNSアドレス	0.0.0.0（自動取得）
LAN側設定	IPアドレス	192.168.0.1
	DHCPサーバ	有効
	DHCPサーバ →開始IPアドレス	2
	DHCPサーバ →終了IPアドレス	32
	プライマリWINSアドレス	0.0.0.0（設定なし）
	セカンダリWINSアドレス	0.0.0.0（設定なし）
無線LAN側設定	SSID	default
	チャンネル	6
	WEP	無効
MACアドレス接続制限		無効
仮想サーバー		無効
特殊アプリケーション		無効
パケットフィルタOUT制限		無効
パケットフィルタIN制限		無効
管理者パスワード		設定なし
セキュアホスト		無効
DMZホスト		無効
シスログ		無効

アフターサービス

① まず、弊社ホームページをご確認ください。

本書【困ったときには】で解決できない場合は、サポートWebページ内の「製品Q&A、Newsなど」もご覧ください。過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。

http://www.iodata.jp/support/

製品Q＆A
Newsなど

添付のサポートソフトをバージョンアップすることで解決できる場合があります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のサポートソフトをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/

最新
サポートソフト

② それでも解決できない場合は…

住所：　〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　サポートセンター
電話：　本社…076-260-3644　東京…03-3254-1144
※受付時間　9:30～19:00 月～金曜日（祝祭日を除く）
FAX：　本社…076-260-3360　　東京…03-3254-9055
インターネット：　http://www.iodata.jp/support/

・お知らせいただく事項について

サポートセンターへお問い合わせいただく際は、事前に以下の事項をご用意ください。

1. ご使用の弊社製品名
2. ご使用のパソコン本体の型番
3. ご使用のOSとサポートソフトのバージョン
4. トラブルが起こった状態、トラブルの内容、現在の状態（画面の状態やエラーメッセージなどの内容）

修理について

修理の前に

故障かな？と思ったときは、
　①本書をもう一度ご覧いただき、設定などをご確認ください。
　②弊社サポートセンターへお問い合わせください。

故障と判断された場合は、下記内容を参照して、本製品をお送りください。

修理について

本製品の修理をご依頼される場合は、以下の事項をご確認ください。

●お客様が貼られたシールなどについて

修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。
その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。

●修理金額について

・保証期間中は、無料にて修理いたします。
ただし、ハードウェア保証書に記載されている「保証規定」に該当する場合は、有料となります。

※保証期間については、ハードウェア保証書をご覧ください。

・保証期間が終了した場合は、有料にて修理いたします。

※弊社が販売終了してから一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

・お送りいただいた後、有料修理となった場合のみ、往復はがきにて修理金額をご案内いたします。
修理するかをご検討の上、検討結果を記入してご返送ください。
（ご依頼時にFAX番号をお知らせいただければ、修理金額をFAXにて連絡させていただきます。）

修理について（つづき）

修理品の依頼

本製品の修理をご依頼される場合は、以下を行ってください。

●メモに控え、お手元に置いてください

お送りいただく製品の製品名、ハードウェアシリアルNo.（製品に貼付されたシールに記載されています）、お送りいただいた日時をメモに控え、お手元に置いてください。

●これらを用意してください

・必要事項を記入した本製品のハードウェア保証書（コピー不可）
　※ただし、保証期間が終了した場合は、必要ありません。
・下の内容を書いたもの
　返送先［住所/氏名/(あれば)FAX番号］,日中にご連絡できるお電話番号,ご使用環境（機器構成、OSなど）,故障状況（どうなったか）

●修理品を梱包してください

・上で用意した物を修理品と一緒に梱包してください。
・輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材にて梱包してください。
　※ご購入時の箱・梱包材がない場合は、厳重に梱包してください。

●修理をご依頼ください

・修理は下の送付先までお送りくださいますようお願いいたします。
　※ 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様ご負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。
・送付の際は、紛失等を避けるため、宅配便か書留郵便小包でお送りください。

送付先　〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　修理係　宛

修理品の返送

・修理品到着後、通常約１週間ほどで弊社より返送できます。
　※ただし、有料の場合や、修理内容によっては、時間がかかる場合があります。